

旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定等懇談会（第6回）次第

日時：令和8年6月5日（金）13：30～17：00

場所：東川町農村環境改善センターホール

1 開 会

2 挨 拶

3 懇談事項

- （1） 旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想（案）について
- （2） 基本構想（案）の確認（グループワーク）
 - ① 基本理念やめざす方向性・構造について
 - ② ①を踏まえた駅跡の役割や導入機能について
 - ③ 空間の考え方について
 - ④ 基本構想案に対する総評

4 その他

5 閉 会

※次回懇談会予定：令和8年7月24日（金）13：30～

東川町農村環境改善センターホール

配付資料

- 【資料1】旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想（案）
- 【資料2】旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想案説明
- 【資料3】第5回懇談会ワークショップ結果
- 【資料4】第6回懇談会ワークショップ資料
- 【資料5】住民説明会発言資料
- 【資料6】有識者からの意見まとめ(当日配布)
- 【様 式】個人ワーク用シート

旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定等懇談会委員・有識者名簿

■委員

分野	所属	役職名	氏名
住民	中央自治振興会	会長	平川 和彦
住民	西部自治振興会	交流副部長	大橋 献太郎
住民	第一自治振興会	事務局長	三輪 裕子
住民	キトウシ自治振興会	総務部長	菅沼 順稚
住民	第三自治振興会	副会長	高崎 隆司
農業	東川町農業協同組合	専務理事	高倉 直樹
農業	東川町農業協同組合	理事参事	樽井 博行
農業	東川町農業協同組合	購買部長	米田 保範
林業	東川町森林組合	代表理事組合長	能沢 勇人
商工業	東川町商工会	会長	高島 郁宏
商工業	東川町商工会	理事	平田 康高
商工業	東川町商工会	理事	能沢 翔汰
商工業	東川町商工会	理事	木村 俊洋
観光	一般社団法人ひがしかわ観光協会	代表理事	竹部 修司
観光	一般社団法人ひがしかわ観光協会	副代表理事	竹内 崇
観光	一般社団法人ひがしかわ観光協会	副代表理事	佐藤 孝一
建築・設計	東川町建設業協会	会長	藤田 裕司
木工・家具	東川木工会～think woods～	代表	長谷川 将慶
木工・家具	東川木工会～think woods～	事務局	小助川泰介
木工・家具	東川木工会～think woods～	事務局	岡村 貴弘
木工・家具	東川木工会～think woods～	事務局	渡辺 雅美
福祉	東川町社会福祉協議会	会長	柏原 定和
福祉	東川町民生委員児童委員協議会	副会長	森田 貞義
交通	旭川電気軌道株式会社	運輸部部長	蟹谷 正
教育	東川町教育委員	教育委員	荒井 一洋
教育	東川町 PTA 連合会	会長	正垣 芳苗
教育	東川町校長会	会計・対策・情報	浅野 拓司
教育	東川国際文化福祉専門学校	副校長	黒田 英敏
教育	北海道立東川高等学校	教頭	森 雅義

■有識者

分野	役職他	氏名
家具・デザイン	椅子研究家 東海大学名誉教授	織田 憲嗣
家具・デザイン	旭川家具工業協同組合理事長 北海道家具工業協同組合連合会代表理事 一般社団法人日本家具産業振興会理事 織田コレクション協力会会長	藤田 哲也
家具・デザイン	織田コレクション協力会事務局 旭川家具工業協同組合専務理事	杉本 啓維
家具・デザイン	株式会社 2M house 代表取締役 モダンリビング・プロジェクトディレクター	下田 結花
人づくり・町づくり	東川町人づくりアドバイザー 壱岐市政策顧問 慶應義塾大学特任准教授・SFC 研究所上席所員	中村 駿介
人づくり・町づくり	東川町観光大使 法政大学大学院政策創造研究科（修士号） アナウンサー	水野 悠希
人づくり・町づくり	一般社団法人新渡戸園有リビングラボ理事長 前北海道大学大学院工学研究院准教授 北海道大学大学院工学研究院非常勤講師 東京電機大学研究員・非常勤講師	小篠 隆生

■役場関係者

所属職	氏名	所属職	氏名
町長	菊地 伸	学校教育課長	竹田 慶介
副町長	市川 直樹	生涯学習課長	今野 裕太
副町長	佐藤 文泰	旭岳ビジターセンター所長	小林 峻
教育長	杉山 昌次	子ども未来課長	塚原 裕美
企画総務課長	藤井 貴慎	議会事務局長	北 雅仁
保健福祉課長	佐々木貴行	農業委員会事務局長	田渕 浩
町立診療所事務局長	藤川 裕充	大雪地区広域連合事務局長	高石 大地
税務住民課長	矢ノ目俊之	子ども発達支援センターおひさま所長	佐々木幸代
文化交流課長	佐々木英樹	文化交流課文化推進室室長	阪部 友洋
多文化共生課長	本多 大樹	写真の町課写真の町推進室主任	吉里 演子
写真の町課長	大角 猛	文化交流課文化推進室	斉藤 知子
会計管理者	工藤 和博	適疎推進課課長	窪田 昭仁
農業振興課長	朝倉 祥貴	適疎推進課適疎推進室室長	中村あさこ
経済振興課長	吉原 敬晴	適疎推進課適疎推進室主事	渡辺 翔太
都市建設課長	金山 裕之	適疎推進課適疎推進室主事	豊口 蓮樹
農地整備センター所長	中山 善敬		

旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定等懇談会設置要綱

(目的)

第1条 東川町が取り組む旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想の策定等について、専門的及び総合的な立場からの意見を聴取するため、「旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定等懇談会」（以下「懇談会」という。）を設置する。

(懇談事項)

第2条 懇談会は、必要に応じ町長が招集し、次に掲げる事項について、意見を述べ、及び意見交換を行う場とする。

(1) 旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想の策定に関すること。

(2) 前号に掲げるもののほか、町長が必要と認める事項に関すること。

2 懇談会の進行は町長が行う。

3 副町長は、町長に事故あるとき、又は町長が欠けたときは、その職務を代理する。

4 町長は、懇談会に必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(委員)

第3条 懇談会は次に掲げるうちから、町長が依頼する委員をもって構成する。

(1) 別表に定める分野に属する団体から推薦された者

(2) その他町長が必要と認める者

2 委員は、懇談会に参加し、意見を述べる。

3 委員の任期は、町長から委員の委嘱を受けた日から旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定の日までとする。ただし、委員に欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員の再任は妨げない。

(庶務)

第4条 懇談会の庶務は、適疎推進課適疎推進室において処理する。

(委任)

第5条 この要綱に定めるもののほか、懇談会の運営に必要な事項は、町長が定める。

附 則

この要綱は、令和7年5月1日から施行する

令和8年4月1日一部改正

別 表

分野
住民
農業
林業
商工業
建設・設計
木工・家具
観光
福祉
交通
教育

旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想（案）

2026年5月
東川町

1. 基本構想の位置づけ

プロジェクトの趣旨

- 東川町は、大雪山の麓に広がる田園地帯として、厳しくも豊かな自然環境と共生しながら、「文化農村」（「東川村史」（昭和29年）序文より引用）としての地域形成を進めてきました。また、1969年には木工家具産業の振興を目的として東川町企業誘致促進期成会を結成し、木工団地の整備および企業誘致を推進してきました。その結果、現在では木工家具産業が生産額および就業人口の両面において町の基幹産業として確立され、町民の約40%が関係する「家具の町」としての地域特性を形成しています。
- さらに、1985年の「写真の町」宣言を契機として、芸術文化を基軸としたまちづくりが展開されてきました。「写真文化」を起点として、国内外の多様な人材や組織との交流と連携を重ねる中で、「大雪山文化」および「家具デザイン文化」と相互に影響し合いながら、東川町独自の文化的蓄積が形成されてきました。
- 一方、今後の東川町のまちづくりにおいては、旭川圏域全体の人口減少が進行する中、令和5年度に策定した「東川町新まちづくり計画2024」において、コミュニティ、産業、福祉、交通、地球温暖化等、多様かつ複合的な課題への対応が求められています。また、中心市街地については、「ひがしかわ価値創造計画」において、「東川の暮らしの魅力を発信し、人や地域をつなぐ」拠点としての機能強化が位置付けられており、町の歴史的資産である旧東川駅跡およびレンガ倉庫群の利活用は、その中核的施策の一つとされています。
- さらに、「東川町新まちづくり計画2024」においては、地域コミュニティを「まちづくりを支える土壌」と位置付け、対話と参加の促進による持続的な地域運営を目指すこととしています。加えて、東川町はこれまでも「ひがしかわ株主制度」および「オフィシャルパートナー制度」等の独自施策を通じ、町内外の多様な主体との関係構築および協働・共創の推進に取り組んできました。
- そのような中、近年、文化を基軸としたまちづくりの進展に伴い、町にゆかりのある国や作家からの芸術作品等の寄贈が増加しています。加えて、北欧家具等から構成される「織田コレクション」についても、次代への継承を目的として取得を進めています。しかしながら、これらの文化資源については、町民への周知および利活用が十分に図られているとは言い難く、その活用方策の確立が課題となっています。
- 以上の経緯を踏まえ、「旧東川駅跡再開発プロジェクト」は、東川町が有する多様な地域資源、文化財および国内外のネットワークを最大限に活用し、将来のまちづくりにおける課題解決の基盤となる拠点の形成を目的として、旧東川駅跡の再整備を行うものです。
- 本プロジェクトの推進に当たっては、計画策定段階から運営段階に至るまで、町民が主体的に関与する仕組みを構築するとともに、文化資源および文化財の活用を通じて新たな文化の創出を図る場とします。さらに、多様な主体との連携のもと、まちづくりの課題解決に資する新たな価値や活動を創出する拠点として位置付けます。
- なお、令和5年度までは本プロジェクトを「KAGUデザインミュージアム」と称していましたが、本プロジェクトは単なるデザイン展示施設にとどまるものではなく、地域資源の総合的活用を通じて、旧東川駅跡一帯を起点とした広範なまちづくりの展開を目的としています。このため、本構想では「KAGUデザインミュージアム」に代え、「旧東川駅跡再開発プロジェクト」の名称を用いることとします。

基本構想の位置づけ

- 東川町では、「新まちづくり計画2024」（令和6年3月）の策定をはじめ、近年対話と参加を重視したまちづくりを積極的に推進してきました。

対話によるまちづくりの取組

取組例① タウンミーティングの開催

- 令和5年度より毎年、各自治振興区や町内団体等を対象に、「タウンミーティング」を開催しています。令和7年度は特に「旧東川駅跡再開発プロジェクト」を主な議題として、開催をいたしました。
- 「タウンミーティング」は、**町長より直接まちづくりの進捗状況を説明した上で、より良い適疎な町づくりの推進を目的に、町民のみなさまと対話を行う**ものです。

取組例② 「新まちづくり計画2024」の策定

- 「**タウンミーティング**」の結果を踏まえて**策定**作業を行いました。
- 策定委員会はワークショップ形式を基本として進行**し、50人の委員が自ら町の将来や今後のアクションプランを話し合いました。これらの対話の場で基づいていただいたご意見に基づき、計画を取りまとめています。
- また、計画の基本理念においては、「**コミュニティづくり** | 対話と参加で共に歩む適疎なまち」をまちづくりを支える土壌と位置付けています。

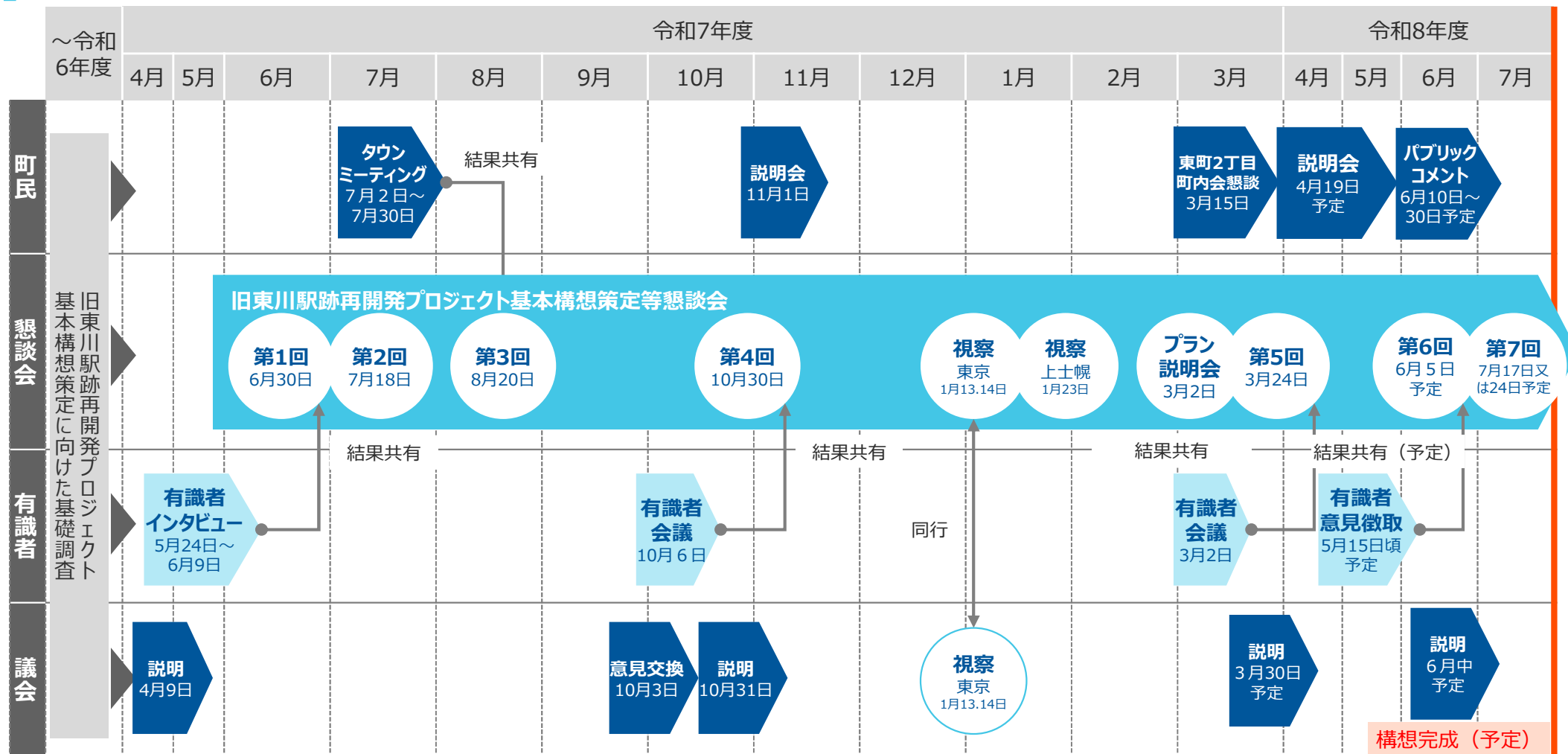
取組例③ 自治振興区別計画の策定

- 令和6年度には、**5つの自治振興会が、それぞれ自らが主体となってアンケートやワークショップ等を行い、地区の「自治振興計画」を策定**しました。
- 町は全体ワークショップの開催や、検討ツールの提供を通じ、これらの改定を支援しました。

基本構想の位置づけ

- こうした対話と参加によるまちづくりの一環として、本構想策定に際しても、有識者、並びに町民の皆様のご意見等を懇談会に共有しながら、検討を進めてきました。
- また、今後の検討においても、引き続き積極的な情報発信を継続することを想定します。

検討プロセスの全体像



基本構想の位置づけ

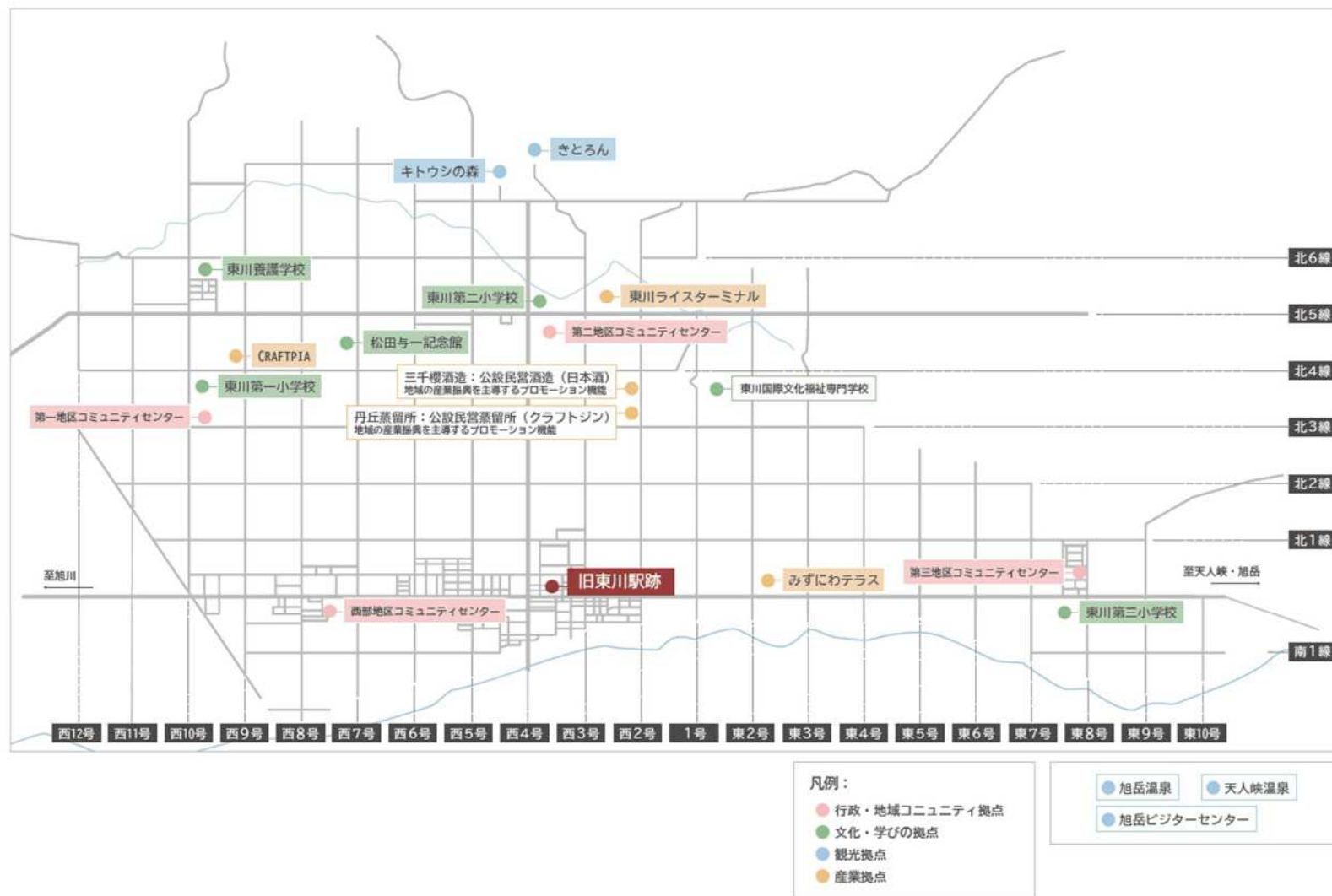
- ・ 懇談会では、下記に示す議事について、主としてワークショップ形式により議論を行いました。
- ・ 本基本構想は、懇談会による議論を踏まえて取りまとめを行いました。

懇談会における各回の議事概要

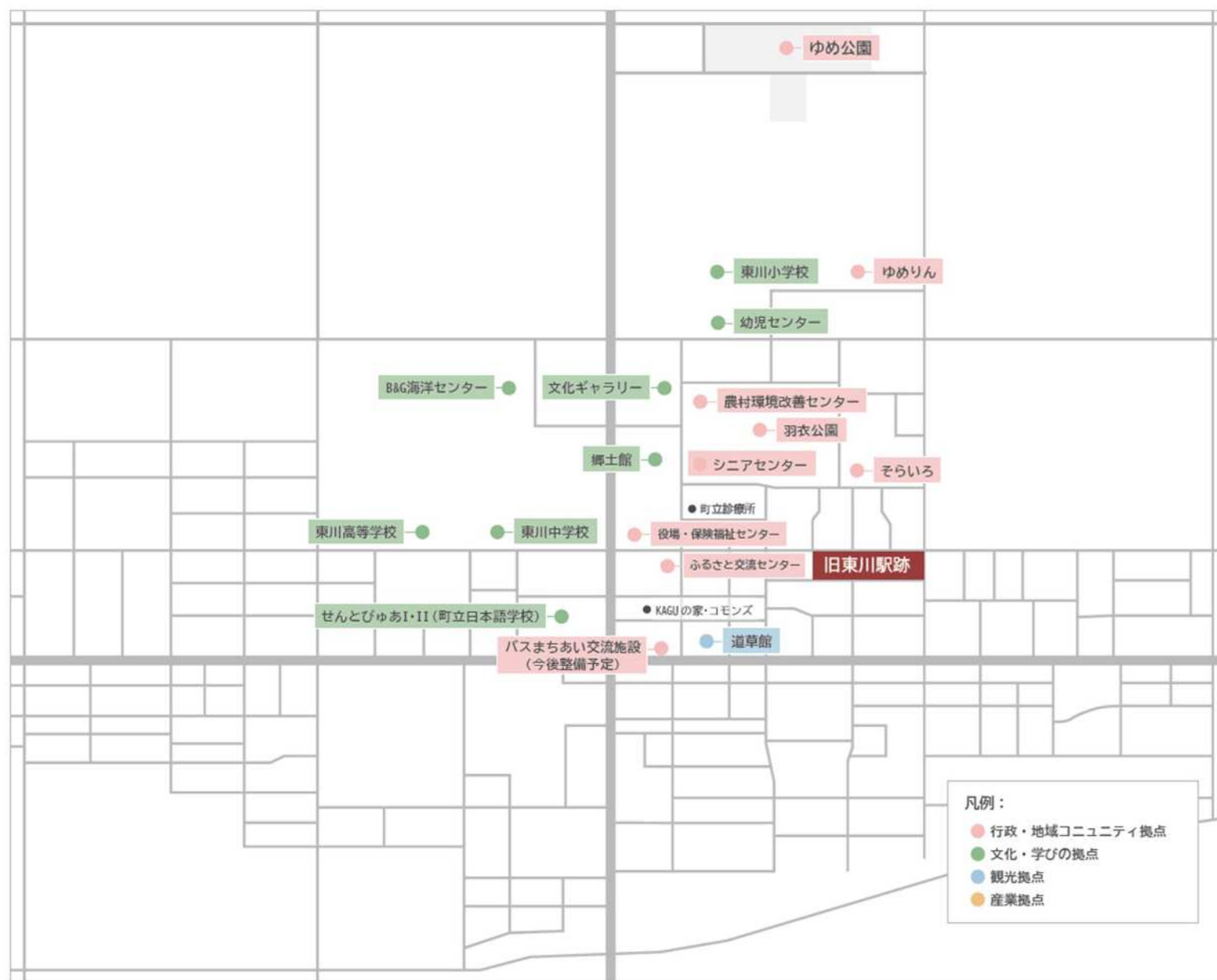
令和7年度	第1回	・ 検討の前提として、駅跡再開発のねらいや懇談会の役割・ゴールについて共通認識を醸成する。 ・ 有識者からの提言内容を確認した上で、まちづくりの課題（協働で取り組み解決すること）や自分たちの課題（自分たちが主導して解決すべきこと）について、ワークショップ形式での議論を行った。
	第2回	・ 農・商・観光・木工・教育・住民等の各分野で、自らの取組における課題を共有する。また、本プロジェクトや織田コレクションをはじめとする町の資源の活用により、それらがどのように解決できるか検討する。 ・ ワorkshop形式での議論を行った。
	第3回	・ タウンミーティングの結果等も踏まえながら、各団体が抱える問題に対して、本プロジェクト／織田コレクションなどの町の資源を活用してどのように解決できるか、ワークショップ形式での議論を行った。 ・ また、基礎調査で示した「基本理念」「本計画に求められる場の役割」の検証を行った。
	第4回	・ 第3回までに検討した内容を踏まえ、成果・効果の観点からねらい、基本理念、機能を整理した。 ・ 5回目以降の議論の活性化に向け、空間イメージ形成に向けたワークショップを行った。
	第5回	・ 第4回までに検討した内容、プラン説明会、視察等の結果を踏まえ、基本構想骨子案（中間報告）を検証した。 ・ ワorkshop形式での議論を行った。
令和8年度	第6回	・ 基本構想（案）に対する意見聴取と、今後のスケジュールを共有する。
	第7回	・ 議会説明、パブリックコメントなどを経て、最終的にまとめた構想案を提示し、最終確認を行う。

各公共施設について

- ・ 町内の既存公共施設を行政・地域コミュニティ拠点、文化・学びの拠点、観光拠点、産業拠点別に整理すると以下の通りです。
- ・ 各施設単体では一定の役割を果たしているとは評価できますが、町全体としての回遊等を促す観点では課題があるものと考えられます。



各公共施設について



旭川電気軌道東川線・東川駅跡地について

- 本プロジェクトにおいて活用を検討する旧東川駅跡は、旭川電気軌道東川線の駅として、昭和47年まで人や物資の移動の拠点として活用され、廃線後もJAひがしかわの農産物の倉庫として利用されてきました。令和6年、ライスターミナルの開設により倉庫としての役割を終えています。
- 現在町内の鉄道は廃止されています。旧東川駅跡にはプラットフォームが現存するほか、東川町郷土館において当時使われていた車両を見学することができます。

旧東川駅跡の概況



（写真）駅跡が写真の屋外展示に活用されている様子（東川町フォト・フェスタ2023／写真の町東川賞歴代受賞作家屋外写真展「Northern Life ―北のくらし、北へのまなざし―」）

年	できごと
大正末期	他の市町村と比較して交通不便であったため、住民の間から旭川への交通機関として鉄道敷設の要望が起こる
昭和2年	旭川電気軌道東川線が開業 戦後を通じて町内商工業者、農協の商品、資材の運送に多大の便宜を与えていた
昭和24年	火災により旭川追分電車車庫全焼、車両焼失 東川駅留置の1両のみ残る
昭和47年	全線廃止
現在	旧駅跡には記念碑が建てられ、プラットフォーム等が現存する。東川町郷土館にはモハ101（昭和24年製造）が展示されている 電車が東川の発展に果たした役割は非常に大きく、この功績を住民の心に永遠に残したい念願から、廃車された一台（101号車）の寄贈をうけ（中略）保存されることとなっている

（出所）東川町史、北海道記念碑Report「東川駅跡碑」（<http://h-kinenhi.sakura.ne.jp/html/higasi.html>）、NHK北海道WEB「懐かしの鉄路・旭川電気軌道」旭川と東川に電車が！」（<https://www.nhk.or.jp/hokkaido/lreport/articles/300/174/03/>）、東川町国際写真フェスティバルウェブサイト（<https://photo-town.jp/schedule>）

建物群の概況

- 本プロジェクトにおいて活用を検討する、旧東川駅跡に現存する建物群の概況は以下の通りです。これらについて、令和6年度に構造的劣化状況の調査および考えられる補強方法の検討を行いました。
- 構造調査の結果を踏まえ、一部倉庫については必要な構造補強等を行ったうえで利活用することを想定します。



- 対象建物群は、歴史的建造物という視点ではまだ、新しい建物であるが、駅舎がない現状では東川町の歴史をとどめる重要な建物群であると考えられる。
- 18号倉庫、車庫、5号倉庫と7号倉庫は一体化されておらず、明確なエキスパンションはない。同様に16号倉庫と14号倉庫は一体化されない。

建物群の概況：（建物は全て平屋建て）

NO	施設名称	建築年	現況構造	NO	施設名称	建築年	現況構造
①	18号倉庫	昭和36年	木造	⑥	14号倉庫	昭和33年	ブロック造＋鉄筋コンクリート造
②	車庫	昭和42年	木造	⑦	25号倉庫	昭和36年	石造＋鉄筋コンクリート造
③	5号倉庫	昭和27年	レンガ造	⑧	38号倉庫	昭和52年	木造
④	7号倉庫	昭和31年	レンガ造	⑨	22号倉庫	昭和33年	レンガ造＋鉄筋コンクリート造
⑤	16号倉庫	昭和34年	ブロック造＋鉄筋コンクリート造	⑩	31号倉庫	昭和44年	鉄骨造（一部SRC造）

（出所）江尻建築構造設計事務所「東川町 文化関係人口発信・活用拠点調査構造改修に関する検討」より引用

2. 旧東川駅跡再開発プロジェクトを通じて解決すべき課題

まちづくりに対する基本的な考え方

- 東川町では古くから「文化農村」が謳われ、特に近年では、「大雪山文化」「家具クラフト文化」「写真文化」という3つの地域が育んだ文化による「適疎」なまちづくりを進めています。

表：東川の人口動態（国勢調査より）

市町村名	1950年	1965年	1975年	1985年	1995年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年 (速報値)
東川町	10,754	9,003	7,616	7,760	7,211	7,701	7,859	8,111	8,314	8,726

1962年	農地の土地基盤整備事業を、全道に先駆け1963年～1975年実施	2014年	写真文化首都を宣言／東川小学校移転
1969年	米造り専門の純農村から脱皮、過疎対策として木工家具産業振興開始	2015年	東川町立日本語学校開設
1985年	「写真の町」宣言。文化芸術によるまちづくりのスタート	2016年	デザインスクール開始／写真文化首都「写真の町」東川町複合交流施設「せんとぴゅあⅠ」開設／織田コレクションの公有化を開始
1994年	写真甲子園スタート／町のホームページスタート	2018年	東川町複合交流施設「せんとぴゅあⅡ」開設
2001年	道の駅「ひがしかわ道草館」開業	2019年	オフィシャルパートナー制度スタート
2002年	美しい東川の風景を守り育てる条例制定	2020年	「共に」宣言／公設民営施設「三千櫻酒造」開業
2003年	合併をしないという選択。地域の特色を活かす施策（住宅支援施策（景観住宅・アパート支援・宅地分譲）、起業化支援など）	2021年	椅子の日制定 KAGUの家オープン・「隈研吾＆東川町」KAGUデザインコンペスタート
2006年	君の椅子開始／新・婚姻届、新・出生届開始	2022年	ゼロカーボンに取り組む適疎な町宣言
2008年	ひがしかわ株主制度（ふるさと納税）スタート	2023年	全世代交流施設「そらいろ」開設／温浴施設「キトウシの森きとろん」開業
2012年	モンベル大雪東川店開業	2025年	公設民営（産業ツーリズム）施設「CRAFTPIA（クラフトピア）」開業 公設民営施設「丹丘蒸留所」開業

2007年ごろから、町の在り方を示す言葉として「**適疎※**」を使用し始める。

2015年 「行政区の再編」と「自治振興会」の設立

※東川町は「適疎」という言葉を、過密でもなく過疎でもない、「適当に『疎』（ゆとり）がある」とことと解釈し、町では2007年頃から、まちづくりの理想像を示す言葉として使用。仲間と時間と空間の3つの「間」があり、人々の暮らしに「ほど良いゆとり」がある暮らしを理想とする。

まちづくりに対する基本的な考え方

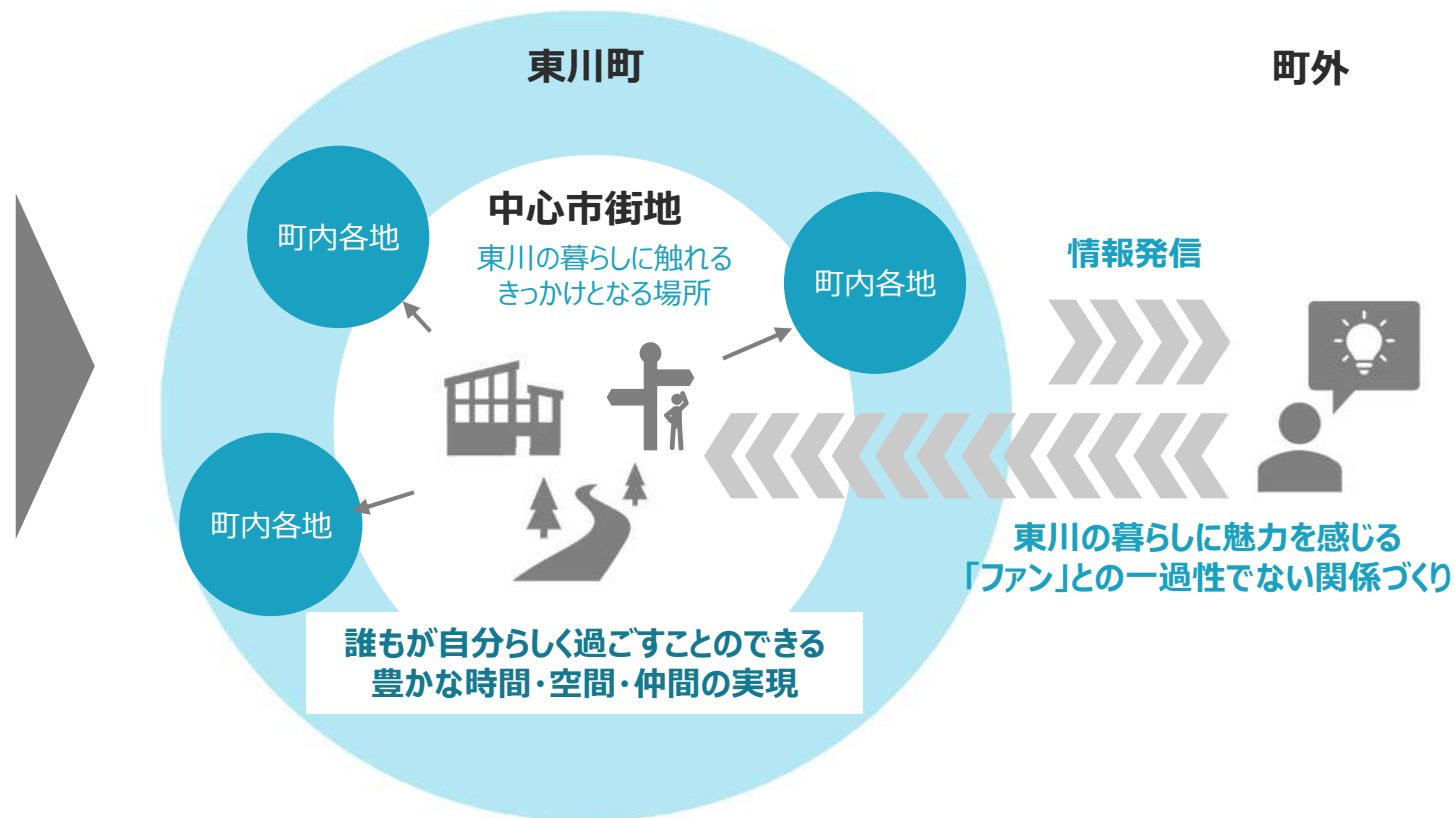
- 新たなまちづくりのあり方が検討される中で、まちの顔である中心市街地の活性化を図る計画として、町民委員によるグループワーク形式を取り入れながら、ひがしかわ価値創造計画（令和5年3月）が策定されました。
- 本事業もひがしかわ価値創造計画において、今後取り組むべき具体策の1つとして位置づけられています。

ひがしかわ価値創造計画

基本目標

- 1 一人ひとりの個性が尊重され、官民が協働する開かれたまちづくり
- 2 豊かな自然の恵みが感じられる仕掛けづくり
- 3 移動しやすく、歩くこと等を楽しめる、回遊性の高い市街地づくり
- 4 町の産業の魅力を学ぶ・体験できる場、発信することができる場づくり
- 5 町の歴史と文化に触れる場・機会づくり
- 6 自然景観と調和する美しい街並みを育てる取組の継続

誰もが自分らしく過ごすことのできる豊かな時間・空間・仲間があり、東川の暮らしの魅力を発信し、ひとや地域をつなぐ中心市街地を共に考え、創造する



まちづくりに対する基本的な考え方

- さらに、令和6年3月には、対話と参加のプロセスを通じ、全町のまちづくり方針を示した「新まちづくり計画2024」を策定しました。

新まちづくり計画2024 基本理念の趣旨

開拓から 130 年、そして写真の町 40 年という節目を迎えた令和 6（2024）年からスタートする新まちづくり計画は、これまでの歴史を尊び継承しながらも、東川町と町を取り巻く時代の潮流を見据え、「**大雪山の恵みを受けて、豊かな暮らしを共に育むまちづくり**」を基本理念としたまちづくりを進めます。

この基本理念は、先人が地域を思い築いてきた町づくりに対する敬意を持ち、多様な価値観を持つ人が互いを尊重しながら暮らすことのできる世界に開かれた適疎な町を目指すものです。現在の人口と同程度の 8 千人台の住民数を維持しながら、日常生活において幸福が実感できる、豊かな暮らしを共に育みながらまちづくりに取り組むことにより、「**地域の特色と多様なつながりにより経済的な豊かさの創出**」、「**多様な学びを実現し人や社会とのつながりの中でいつまでも自分らしく安心して暮らせる環境の形成**」、「**自然と共生した美しい景観の保全、多様な価値観を持つ人が共生する活力ある地域コミュニティづくり**」等、様々な観点から町民生活の質全般を向上させ、町に住む、東川町を愛するすべての人が、東川町の過去と現在、魅力や課題を共有し、将来のまちづくりについて共に考え、対話し、共創することができるまちを目指すものです。



（出所）東川町ホームページ、東川町まちづくりブック2024

まちづくりに対する基本的な考え方

- 本プロジェクトは、「新まちづくり計画2024」で示したまちづくりの新たな課題の解決や、基本理念・目標の推進に資するものとして推進することとします。

まちづくりの新たな課題

課題

1

「東川らしい地域コミュニティを考えよう」

～地域の人たちの生活基盤であるコミュニティを持続的なものに～

課題

2

「東川の子どもたちが帰ってくるのできるまちづくり」

～10年後、20年後の町の担い手を育てよう～

課題

3

「魅力ある産業の振興と地域内外の協働・共創」

～農業、商工業、観光業が連携した産業を発展させよう～

課題

4

「生活の足となる総合的な交通対策」

～高齢者など自家用車を持たない人も移動がしやすい町に～

課題

5

「子どもたちの未来と高齢者等が安心できる暮らし」

～安定した福祉サービスが受けられるように～

課題

6

「大雪山と市街地の魅力を生かす観光産業」

～天人峡、市街地、キトウシの森、旭岳をより魅力的に～

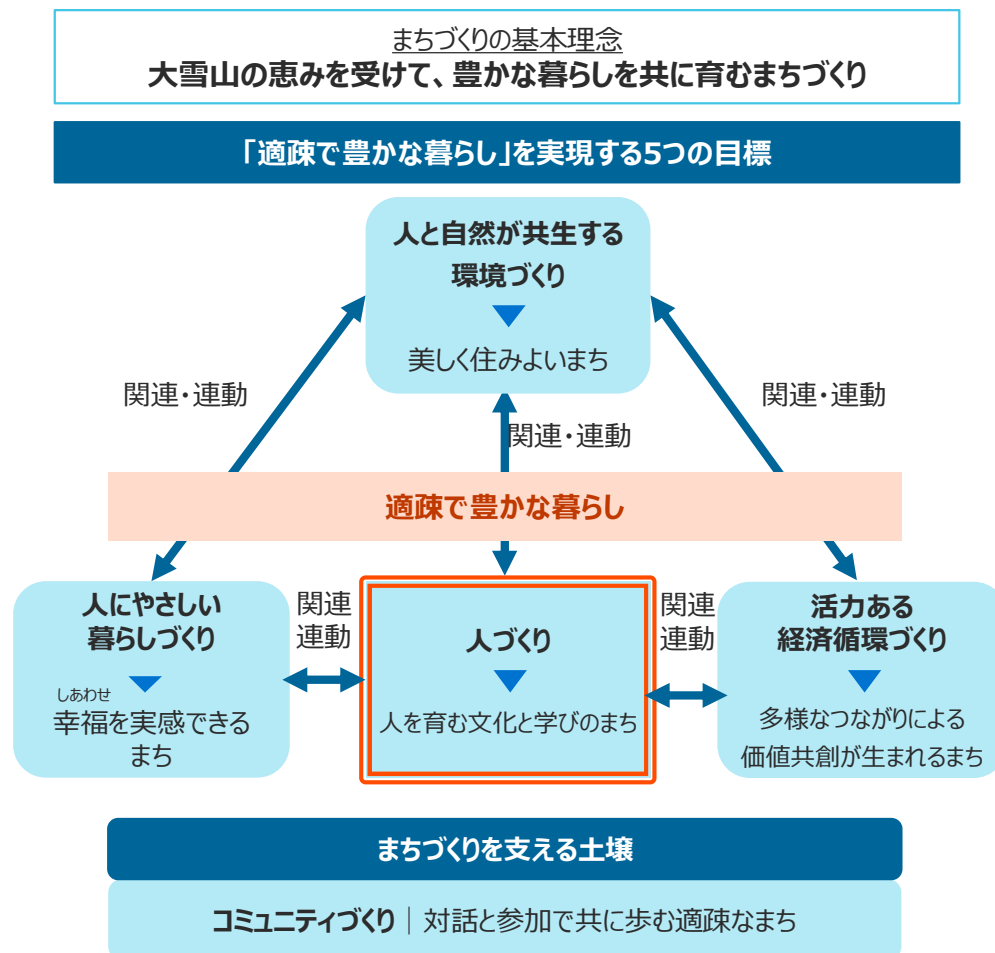
課題

7

「大雪山の恵みを守り、豊かな暮らしを実現するまちづくり」

～東川だからこそ、地球温暖化や気候変動への対応へ率先して取り組みたい～

「新まちづくり計画2024」の理念と目標



東川町の文化財

- 東川町には約7,000点の文化財があります。その一つである「織田コレクション」は、20世紀のすぐれたデザインの家具と日用品群が関連資料とともに系統立てて集積された、世界でも類を見ない貴重なコレクションです。
- 現在一部が「せんとぴゅあ」等で常設展示されているほか、外部展示会への貸出等が行われています。

東川町の文化財（令和7年度末時点）

カテゴリ	数量
総数	7,009
建造物	14
美術工芸品	6,585
（主な内訳）	
写真の町東川賞受賞作家作品（写真）	3,523
織田コレクション（家具・日用品）	1,333
松田与一作品（彫刻）	691
大雪山アーカイブス（大雪山の歴史を伝える書籍等）	421
藤野千鶴子作品（絵画）	426
安田侃彫刻	6
その他	14



（出所）東川町ホームページ、せんとぴゅあホームページ

織田コレクションの概要

- 2016年以来、東川町は織田コレクションの公有化、文化財登録を進めてきました。
- 町内では、年に数回の作品の入れ替えをしながら、せんとぴゅあにあるギャラリー1や家具デザイナーアーカイブスコーナーにおいて常設展示しています。
- 最近では、都市圏で開催される展覧会への貸出等も行っています。

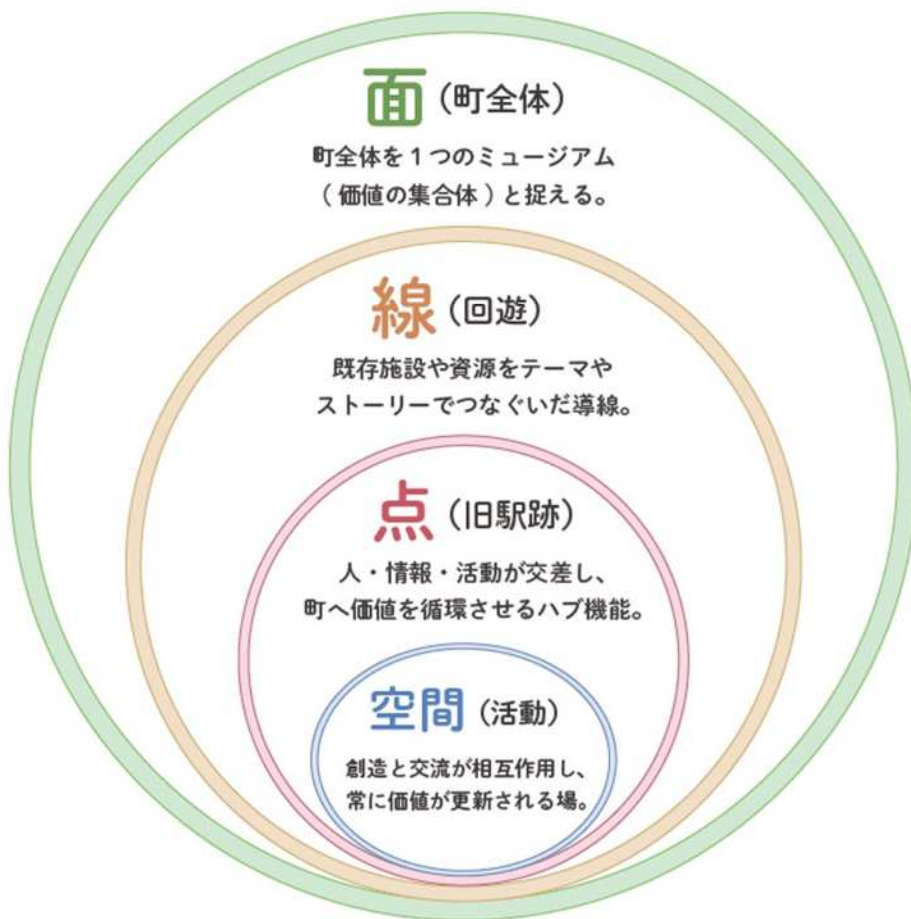
表:織田コレクションの概要

カテゴリ	数量
椅子	約1,450種類（文化財登録：1,319件）
テーブル・デスク	約75種類（文化財登録：14件）
キャビネット	約50種類
照明器具	約150種類
陶磁器	約3,500ピース
ガラス器	約1,000ピース
器、ボウル類	約50種類
カトラリー類	約1,300ピース
木製玩具、オーナメント類、イッタラバード等	約500種類
バードハウス、バードフィーダー類	約100種類
各種資料（文献、図面、写真等）	約20,000種類

3. 旧東川駅跡再開発プロジェクトの基本的な方向性

はじめに

- 本プロジェクトは、東川町の自然、産業、歴史、暮らしといった多様な地域資源の価値＝文化に触れ、学び、人と人がつながることを通じて、東川らしい豊かな暮らしを育むことを基本理念とします。
- また、その実現にあたっては、「町全体がデザインミュージアム」の考え方にに基づき、旧東川駅跡と町内に点在する既存施設や地域資源を結びつけ、来訪者がそれらを回遊しながら体験することにより、単一施設としての完結ではなく、町全体の価値を高めることを図るものとします。
- 本構想は、施設整備のみにとどまらず、町内外の人々が主体となって活動し、新たな価値を生み出す「場」を形成することを重視し、町全体がめざす構造と方向性を示すものと位置づけます。



コア・コンセプト

「町全体がデザインミュージアム」

旧東川駅跡単体で完結させず、町全体へと価値を循環させる、回遊の起点を創る。

基本理念

- 旧東川駅跡は、今ある公共施設と連動しながら、町全体の環境や街並みとの調和の中で、「東川の歴史・文化・人の魅力に触れ、豊かな暮らしを育む拠点」として下記の機能の導入を想定します。

基本理念（案）

東川の魅力に触れ、学び、人とつながりながら、東川らしい豊かな暮らしを育む拠点

- 東川の暮らしを支える、生活・産業・文化の歩みを学べる場
- 多様な人々が地域の活動に参加し人と人がつながる場
- 世界と共に新しい価値を探究し発信する場
- 町民にとって日常的でかけがえのない居場所

導入機能（案）	コンテンツ
1. 文化に資する機能	- 東川の暮らしの源流である生活・産業・文化の歴史等を知ることができる機能 - 織田コレクションを核として国内外との交流を促進し、新たな文化価値の創出につなげる機能
2. 学びに資する機能	- 町内外の多様な主体との協働を通じて、体験・活動・学び合いの機会を創出・支援する機能 「学ぶ」「働く」「暮らす」ことを一体的に支援し、町への定住や新たな地域活動の創出につなげる機能
3. 地域に社会的・経済的価値を生み出す機能	東川の産業の魅力を広く発信するとともに、多様な主体との連携により新たな価値を創出する機能
4. コミュニティづくりに資する機能	- まちづくり団体の活動や取組を広く発信する機能 - 町民が日常的に集い、憩い、交流し、イベント等を行うことができる居場所機能

機能配置の検証 | 「町全体がデザインミュージアム」公共施設の機能の補完・深化のポイント

- 本構想では、旧東川駅跡と既存の拠点を相互に連携させることで、地域の様々な資源を結び付け、新たな価値や人の回遊を創出することを図ります。
- 旧東川駅跡は、人・場所・情報・活動をつなぎ、回遊の入り口となる、起点（ハブ）であると位置づけます。
- 導入機能の一つである路面電車については、郷土館改修との一体的な整備・活用の観点から検討を進めるものとします。

カテゴリ	主要施設名	既存拠点の役割	ハブとしての旧東川駅跡が担う役割のイメージ
行政・地域コミュニティ拠点	そらいろ	全世代を対象に健康増進、交流、遊び・居場所機能を提供する地域交流拠点。	• 地域におけるコミュニティ活動が活発化することを目的に、地域で行われる様々な活動や、地域ごとの「暮らし」にかかわる情報を集約し発信すると共に、利用者や活動内容に応じて柔軟な利用ができる空間を提供することを通じ、町内に新たな活動やつながり、コミュニティビジネスなどを生み出します。 • 住民と外部来訪者の双方が利用する居場所として、「憩い」「交流」「さらなる広がり」をもたらす場とします。
	コミュニティセンター	各地区における自治活動、学び、日常交流を担う地域コミュニティの基盤拠点。	
	ふるさと交流センター	地域で活動する様々な団体の拠点として、会議・交流・協働の場を提供する拠点。	
	ゆめりん	スポーツ、レクリエーション、学童保育等を通じ、子どもから高齢者までの健康・余暇活動を支える拠点。	
文化・学びの拠点	せんとびゅあ I・II（町立日本語学校）	写真・家具・大雪山文化の展示・学習・国際交流を行う文化・教育拠点。	• 町全体の文化資源について知るハブとしての役割を担い、既存拠点の収蔵・展示空間等との連携により、地域全体の文化的価値の向上を目指します。 • 旧東川駅跡においては織田コレクションを核とした文化的価値の創出を図ります。 • 併せて、旧東川駅跡、東川が培ってきた生活文化の観点から、町の歴史を理解できる場とします。
	文化ギャラリー	写真や芸術作品の鑑賞および創作発表の場を提供する展示拠点。	
	郷土館	地域の歴史・民俗・生活文化の資料を収集・保存・展示する拠点。	
	松田与一記念館	農民文化、東川氷土会および松田与一の思想・作品を通じ、地域の精神性や文化的価値を伝える拠点。	
観光拠点	道草館	観光情報の発信及び特産品販売を担う観光の玄関口となる拠点。	• 東川の食や産品を知るきっかけとなる場と位置付けることで、道草館や既存店舗への回遊を促します。 • キトウシ・旭岳・天人峡等で得られる体験や、大雪山文化等について情報提供することで、これらのフィールドに足を運ぶきっかけ作りを行います。 • 飲食・物販等については、旧東川駅跡の趣旨と合致するものとします（例えば、憩いや交流に資する範囲での飲食物の提供、展示等と関連した物販）。
	キトウシの森・きとろん	自然環境や温浴を通じて五感で体験する滞在型観光・交流拠点。	
	旭岳・天人峡	大雪山国立公園の自然環境を体感する観光・登山・滞在の主要フィールド拠点。	
	旭岳ビジターセンター	大雪山・旭岳エリアにおける自然体験の入口として、登山・観光情報提供、自然解説を行い、来訪者の行動を支える拠点。	
産業拠点	CRAFTPIA	家具・木工分野における人材育成、技術継承、共創活動を担う産業拠点。	• 地域の事業者・団体等と連携し、地域の産業・産品の由来を伝える場とともに、「農と食」「ものづくり」などをテーマとした体験型のプログラムやワークショップを展開することで、各産業への関心を喚起します。 • 地域の人材や事業者が運営、活動に積極的に参画できる仕組みを構築とすることで、産業振興や新たなビジネスが生まれる場としての役割を担います。
	ライスターミナル	農産物の集出荷・品質管理およびスマート農業等の技術導入を担う農業基盤拠点。	
	みずにわテラス	農業体験・食育・都市交流を通じ、農と食の価値を体験的に伝える交流拠点。	

機能配置の検証 | 旧東川駅跡を拠点（旧東川駅跡）とした回遊イメージ

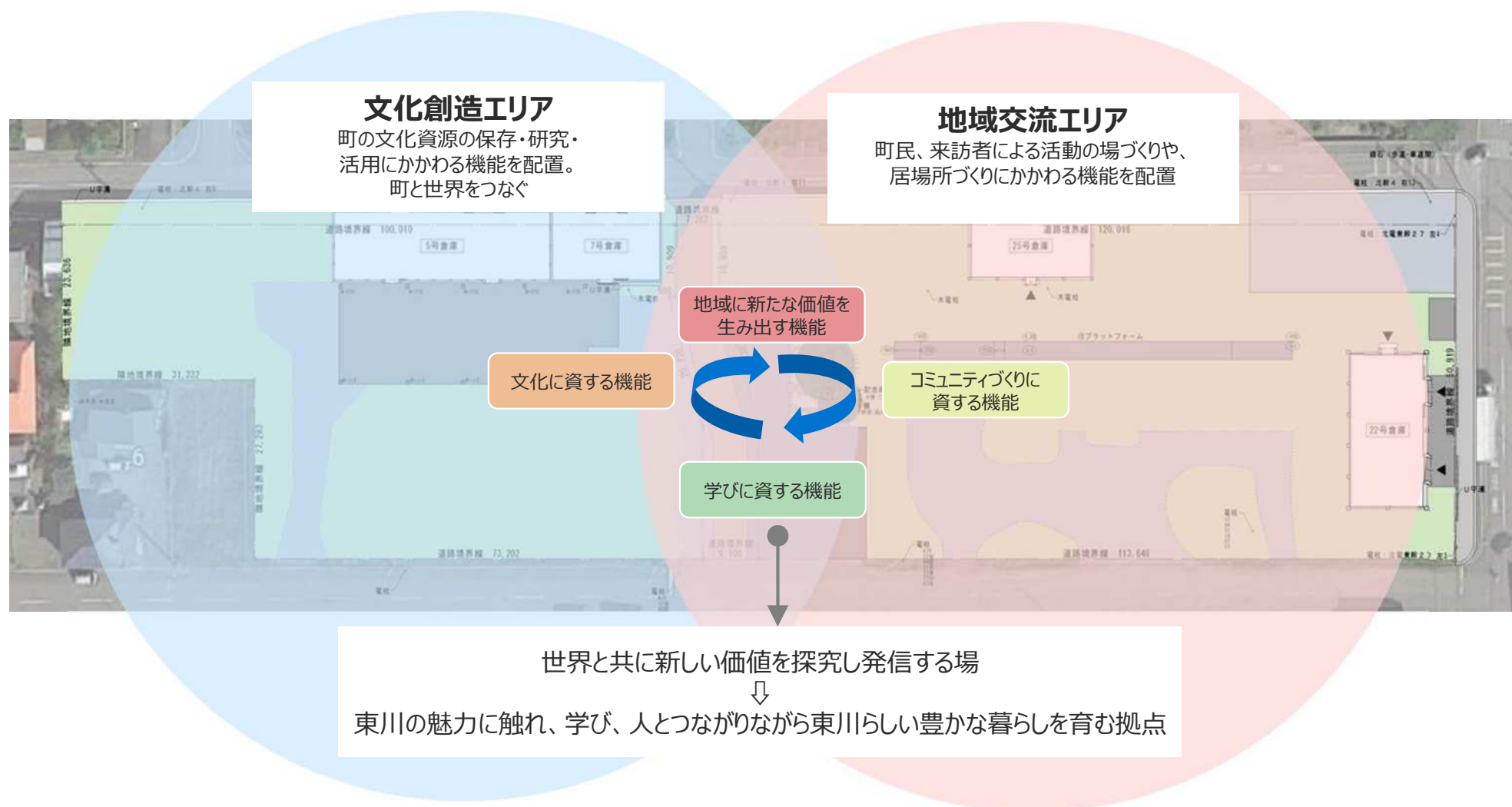
- ・「町全体がデザインミュージアム」と位置づけ、旧東川駅跡を人・場所・情報・活動・施設などをつなぐ起点（ハブ）とした場合の町全体回遊イメージとして、下記に示すようなコースが考えられます。
- ・回遊動線の具体的な在り方等については、基本計画以降でより詳細に検討するものとします。

町全体がデザインミュージアム：旧東川駅跡を拠点（旧東川駅跡）とした4つの回遊イメージ



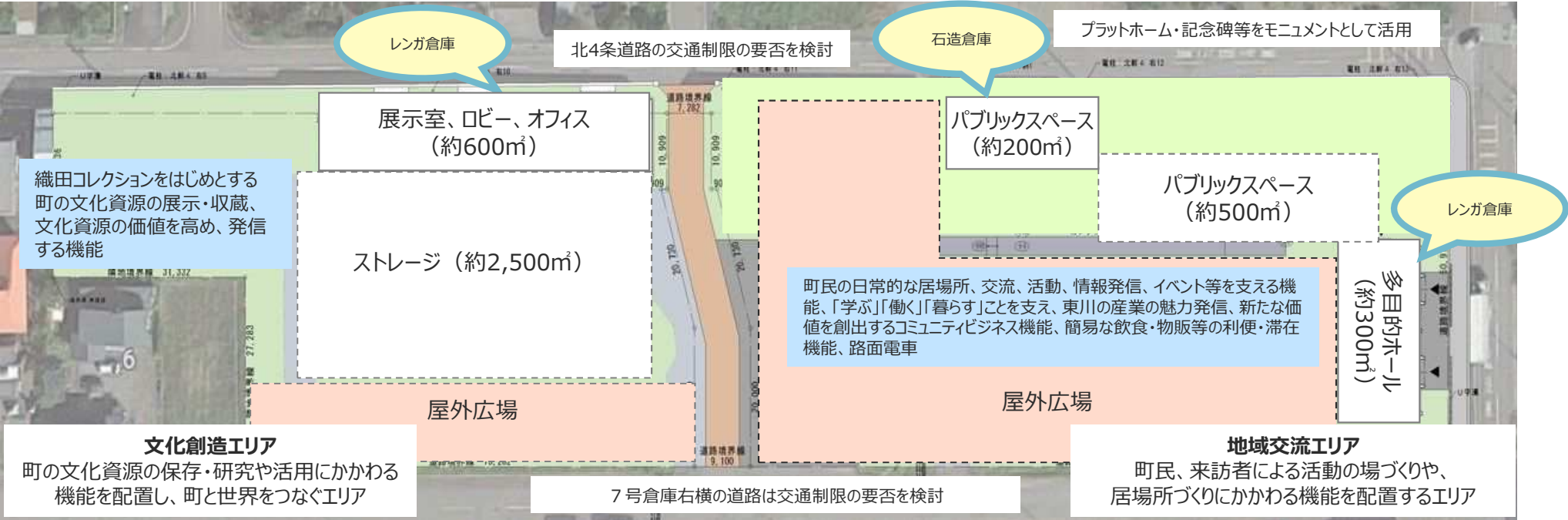
機能配置の考え方 | 旧東川駅跡が果たす役割

- 旧東川駅跡は文化創造エリアと地域交流エリアの、異なる役割を果たす2つのエリアから構成される公共空間とし、関連する町内他施設と相互に機能を補完しながら計画・整備・運営します。
- また、両エリアが交わりあうことで、町内外の主体の相互の学びあいや、新たな価値が創出されと考えます。



機能配置の考え方 | 旧東川駅跡

※下図は機能配置や全体として適正な規模等に対する現段階の町の考え方を示したものです。各建物の詳細な位置や形状、面積等は未確定であり、引き続き検討を進めます。



エリア活用の方針（案）

項目	内容
プロジェクトの方向性	町の自然、産業、文化、暮らしなどを地域資源として捉え、町全体を学びと体験の場とする「 町全体がデザインミュージアム 」
機能・サービス	織田コレクションをはじめとする町の文化資源の展示・収蔵、文化資源の価値を高め、発信する機能、KAGUコンペ作品ほか 町民の日常的な居場所、交流、活動、情報発信、イベント等を支える機能、「学ぶ」「働く」「暮らす」ことを支え、東川の産業の魅力発信、新たな価値を創出するコミュニティビジネス機能、交流や憩いに資する範囲での飲食・物販機能、駅跡の歴史を示す路面電車
既存建物の活用範囲	レンガ造、石造等、一定の歴史価値を有すると思われる倉庫およびプラットフォームは原則として残す。既存倉庫で賄えないエリアに必要な機能については、建物を新築により整備をしていく。

想定する空間（案） ※実線は既存倉庫活用、破線は新設を想定

空間	想定する活用方法
ストレージ	織田コレクションを中心に、町が所有する文化資源を収蔵する。収蔵庫を公開する、収蔵展示の実施を想定する。
展示室、ロビー、オフィス	織田コレクションなど町が所有する文化資源の展示室や、ロビー、その他運営に必要な事務所等としての活用を想定する。
パブリックスペース	日常的な居場所として、町民の活動、交流、憩い、情報発信等での活用、「学び」「働き」「暮らし」を支え、東川の産業の魅力発信、新たな価値を創出するコミュニティビジネス機能、交流や憩いに資する範囲での飲食・物販機能、駅跡の歴史を示す路面電車の展示などを想定する。
多目的ホール	各種文化活動、講演等での活用を想定する。
屋外広場	町民の憩いや交流、イベント等の場としての活用を想定する。

今後の検討

- これまでの懇談会や対話のプロセスを通じて得た意見を下記 5 つの問いとして整理し、①～②は特に基本構想で明らかにする事項、③～⑤は現段階では留意することとし、基本計画で実施に向けて検討を行う事項と位置付けます。

今後の検討に向けた考え方

項目		想定される検討事項
特に基本構想において明らかにする事項		
①	旧東川駅跡の位置づけ	- 町にとってこの場所は何の拠点なのか（観光拠点か、文化拠点か、日常利用の場か） - 導入機能と構成案（コンテンツ）、その優先順位をどう考えるか
②	デザインミュージアムという考え方	- 東川町が掲げる「町全体をミュージアムとする」考え方との整合性 - 拠点施設としてどこまでを担うべきか - 町内の公共施設（分散配置）との役割分担
現段階では留意することとし、基本計画で実施に向けて検討を行う事項		
③	実現性・段階性	- 初期整備として現実的な規模・内容か - 将来的な発展・修正が可能な構造になっているか - 財政的・人的リソースとの関係
④	運営と担い手	- 行政が担うべき部分と民間・地域に委ねる部分 - 指定管理・協働運営との相性 - 長期的に持続する運営像が描けているか
⑤	町民・来訪者との関係	- 日常的な町民利用のイメージ - 子ども・若者・高齢者の関わり方 - 観光客とのバランス

上記のほか、本施設は回遊の起点としての役割を担うことから、徒歩だけでなく自動車利用も含めた実効性のある移動体系を前提とし、交通結節機能や駐車機能のあり方については、基本計画において具体的に検討します。

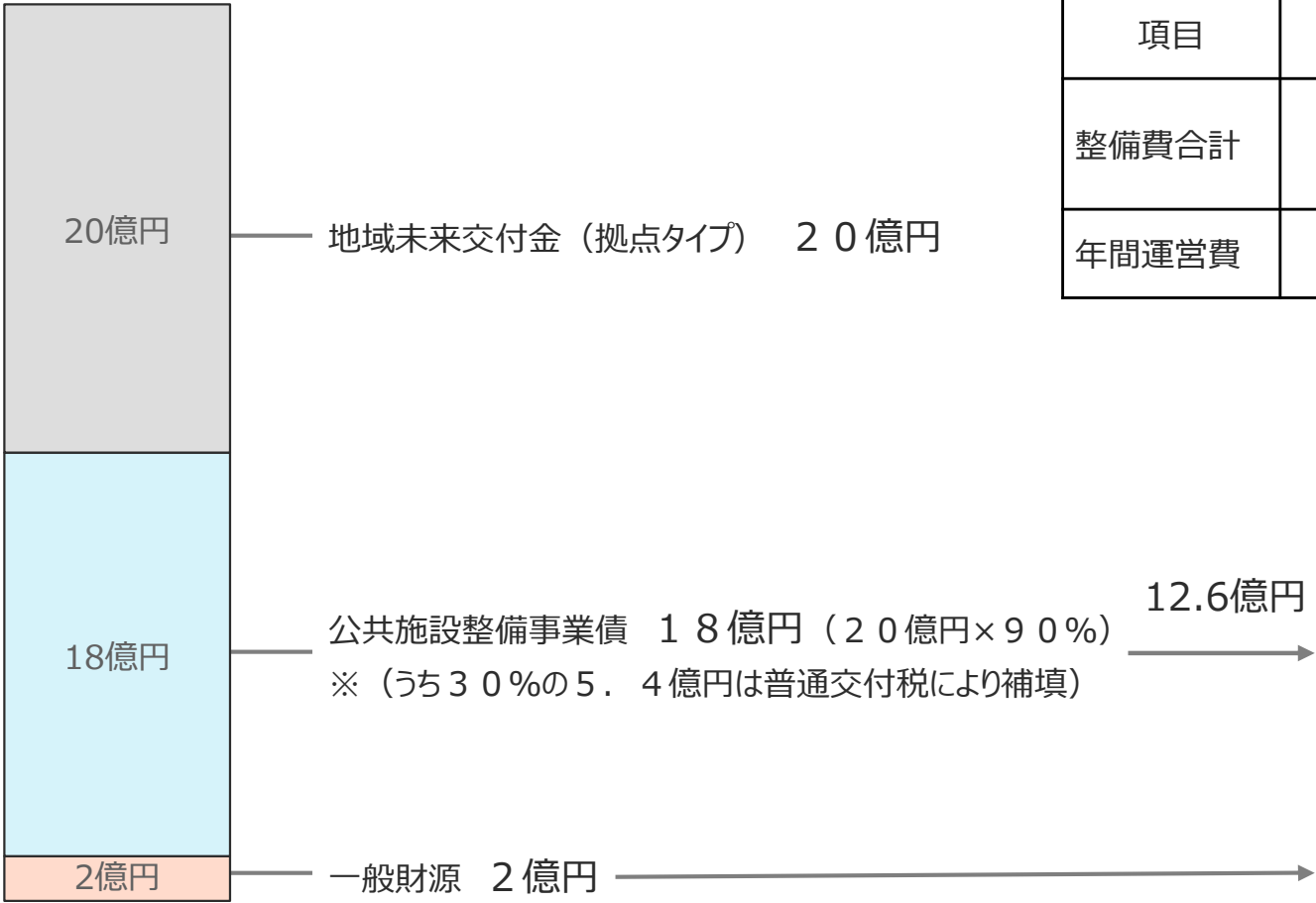
概算事業費 | 整備費（ケーススタディ）

- 概算事業費は約45億円規模と試算し、設計精査・仕様調整により約40億円規模への最適化を前提に検討を進めます。財源見込は40億円ベースで策定しており、地域未来交付金（20億円規模）や起債、一般財源を組み合わせた多角的な財源構成を見込んでいます。総事業費の約 6 割以上を国庫補助・地方交付税でカバーするほか、実質的な町負担分14.6億円はふるさと納税により確保を見込みます。

➤ 整備事業費40億円とした場合の財源見込

※ケーススタディ（既存倉庫改修を含む）では、以下の費用が見込まれる。

項目	金額	備考
整備費合計	約45億円	新設整備 78万円/㎡、 改修 160万円/㎡、外構、 設計費、既存倉庫除却費
年間運営費	約1.1億円	約4,000㎡対象



※実質的な町の持ち出し**14.6億円**

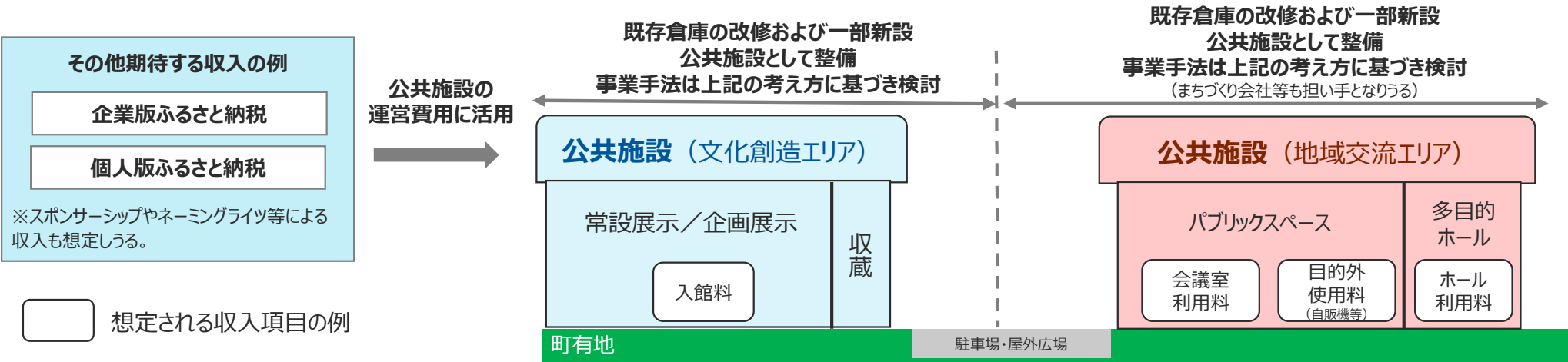
※ふるさと納税により確保

施設事業運営手法の決定に当たり重視する考え方

- 町の現状や本事業の趣旨を踏まえ、例えばまちづくり会社による運営への参画等の可能性も視野に入れながら、今後最適な事業運営手法を決定します。
- 今後、事業運営手法を決定するに当たり、前提となる町の考え方について以下に示します。

項目	重視する考え方
民間ノウハウの活用余地	施設設置目的や公共性を踏まえつつ、一部業務については、民間事業者の専門性を活かし、利用者満足度向上や運営改善を図る形も考えられる。
地域経済循環・地域主体の運営	様々な事業手法・運営形態が想定しうるが、エリア全体の価値創出を図るうえでは、施設整備・運営を通じて、地元企業、団体、人材の参画機会を確保し、地域内経済循環や地域との関係性の深化を図ることが重要である。
利用者視点の体験価値向上	単なる施設管理ではなく、来館前から来館後までの一連の利用体験を設計し、使いやすさ、居心地、分かりやすさ、再訪意欲の向上を図る「サービスデザイン」の考え方を活かした施設運営が重要である
エリア全体での価値創出	本施設単体で完結するのではなく、周辺の公共施設や観光資源等との連携を通じ、来訪者の回遊や滞在時間の増加を図る視点が重要である。 これにより、施設単体の集客だけでなく、地域全体の魅力向上やにぎわい創出につなげることが期待される。

事業スキームの例



生活への影響と配慮

- 本プロジェクトの検討にあたっては、対象地周辺の住民、特に東町2丁目の皆様の生活環境への影響について、最重要事項の一つとして位置付けます。
- 本事業は現在、基本構想段階にあり、具体的な設計内容、配置及び運営手法については未確定です。今後の基本計画及び設計段階においては、地域住民への説明及び対話の機会を確保し、その意見を十分に踏まえながら、生活環境との調和を最優先として検討を進めます。

生活への影響と配慮

本プロジェクトは、地域住民の生活環境の維持を前提として推進するものである。今後の各段階においても、継続的に説明及び対話の機会を設け、地域との合意形成を図りながら進めるものとする。

- 1. 交通への配慮** 動線計画にあたっては、生活道路への通過交通の集中を回避することを基本とします。必要に応じて交通安全対策を講じ、静穏な生活環境の維持に配慮します。
- 2. 歩行者の安全確保** 通学路及び日常的な歩行動線については重要な視点として位置付け、設計段階で安全性確保に必要な対策を講じます。
- 3. 地域の分断防止と動線への配慮** 当該地は町内会の中心に位置し、羽衣公園を境とした北地域・南地域の活動動線上にあることから、整備にあたっては地域の分断を生じさせないことを基本とします。通路や交通形態に変更が生じる場合には、事前の情報共有及び検討段階からの協議を行い、地域活動に支障が生じないよう対応します。
- 4. 駐車場の配置** 駐車場については、住宅地への影響を最小限とする配置を基本とし、その規模についても必要最小限とします。また、イベント時においては、駐車場の分散配置等の運用について検討します。
- 5. 資源ごみステーション** 当該地に設置されている資源ごみステーションは、地域の日常生活に不可欠な機能であることを踏まえ、その利便性を確保することを基本とします。移設が必要となる場合には、地域住民との協議を前提として検討を行います。
- 6. 駅跡記念碑の維持管理** 駅跡記念碑は、地元有志により設置された歴史的価値を有する資産であることを踏まえ、その保存及び活用について適切に位置付けます。維持管理の在り方については、現在の地域による管理状況を踏まえつつ、事業と一体的な管理の可能性も含め、地域と協議しながら整理します。
- 7. 緩衝帯の整備** 住宅地との境界部においては、樹木や植栽による緩衝帯の形成を基本とし、視線及び音環境への配慮、並びに良好な景観形成を図ります。これにより、施設と住宅地が調和的につながる環境の形成を目指します。
- 8. 夜間利用への配慮** 夜間利用及びイベントの実施にあたっては、地域の生活環境との調和を基本とし、必要な運用上の配慮を行います。

事業スケジュール

- 本基本構想策定後、基本計画により、事業のより具体的な与件を決定することを想定します。
- 基本計画策定後、設計および建設に移行するとともに、並行して施設の開業に向けた運営面の準備を行います。

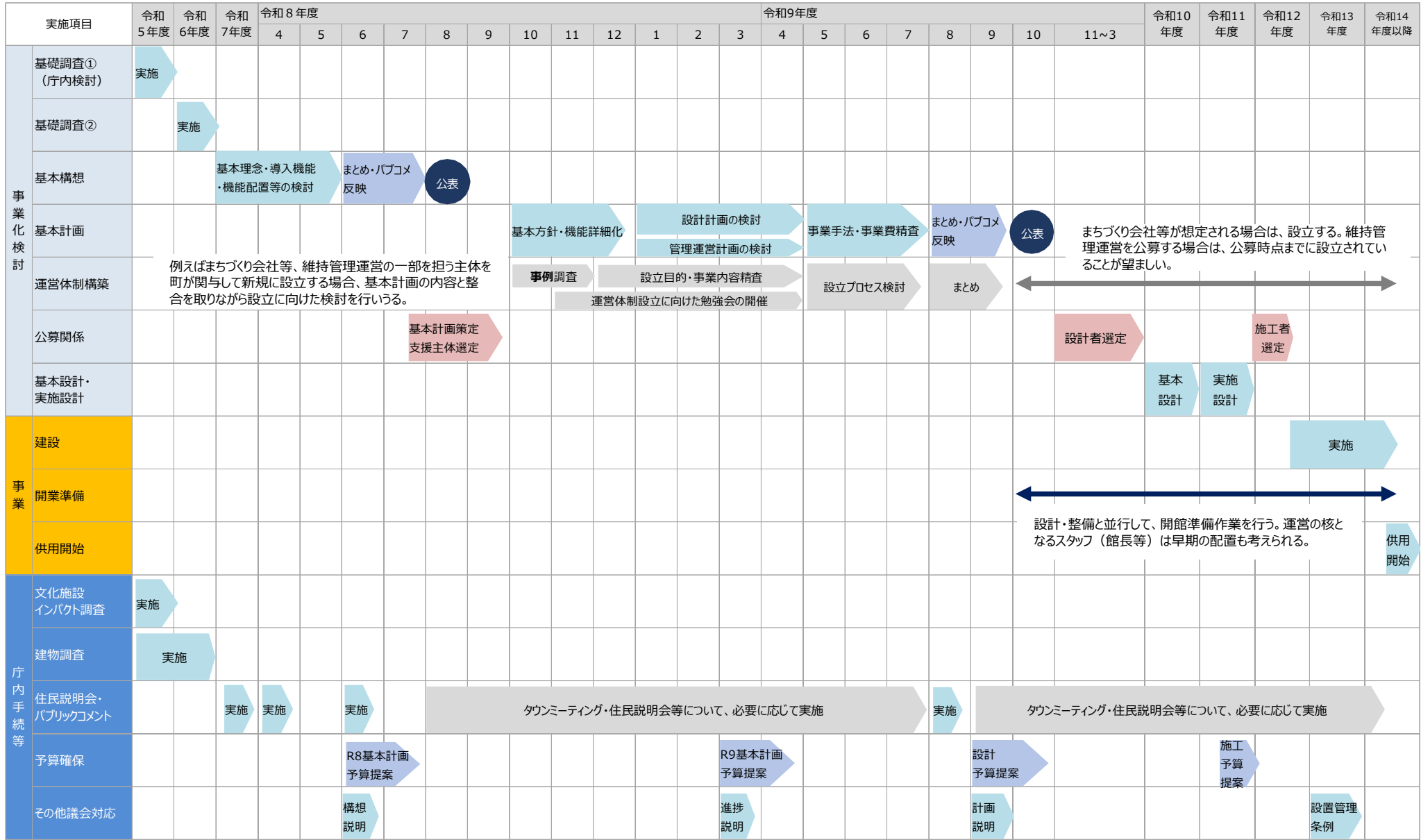
主要な検討プロセス

検討プロセス	主な検討事項	所要期間
基本構想策定	旧東川駅跡の位置づけやデザインミュージアムの考え方を中心に、基本理念、導入機能、おおよその施設規模等を検討し、事業の基本的な方向性を決定します。	約1年
基本計画策定	導入機能の詳細化、施設計画、管理運営計画、概算事業費、事業手法等の検討を通じ、事業のより具体的な与件を決定します。	約1年
基本設計・ 実施設計	- 基本設計では、施設配置、平面、立面、断面、構造、設備、外構の設計、整備費積算等を行い、基本設計図書を完成させます。 - 実施設計では、対象施設にかかわる詳細設計、整備費積算等を行い、実施設計図書（発注図書）を完成させます。	約2年
建設・ 開業準備	- 施設や外構の整備を行います。活用対象外の既存施設の除却等は、先行して実施する可能性があります。 - 運営面の開業準備として、学芸員・事務スタッフの雇い入れ、既存収蔵品の移転、展示及びその他事業の準備、供用開始に向けた広報業務等を実施します。特に学芸／事務の核となるスタッフについては、設計等との連携のため、さらに早期に配置する可能性があります。	約2年～

実際には、供用開始までの各検討プロセスの所要期間は、建設市況等の社会情勢、対象施設の規模・種類、採用する事業手法、関係者との意向調整の経過、既存建物を利用する場合は当該建物の現況等、様々な個別具体的要因に影響を受け、変動する可能性があります。

事業スケジュール

長期事業スケジュール（例） ※直営を想定した例を示していますが、実際には前ページで示した各種変動要因により、下図と異なる推移をたどる可能性があります。



■「旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想（案）」について

1. はじめに

「旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想（案）」は、これまでの検討経過を踏まえ、現時点までに整理した内容および今後の検討の方向性を体系的に示すものです。

本構想案は、従来の施設整備に主眼をおいた計画とは異なり、東川町の将来のまちづくりを構想し、本プロジェクトの位置付けを明示することを目的としています。

2. 地域の抱える課題を解決するプロジェクト P 2～3

「旧東川駅跡再開発プロジェクト」は、東川町の様々な地域資源や文化財、国内外とのネットワークを活用し、将来のまちづくりに向けた課題解決を図る基盤となる場所として旧東川駅跡の活用を図るものと位置づけています。

本プロジェクトの実現に向け、開設後の日常的な利用など、町民が主体的に活用できる場とすること、町の文化資源や文化財を活用することで新たな文化を創出していく場とすること、東川町が多様な主体とのかかわりの中で、まちづくりの課題解決につながる新たな発見や経済活動を生み出していく場とすることを想定しています。

令和5年度までは、本プロジェクトを「KAGU デザインミュージアム」と称していましたが、本プロジェクトはデザインに関する展示施設にとどまらず、まちの様々な資源を活用し、旧東川駅跡一帯を起点として幅広くまちづくりの課題の解決を目指すものであることから、事業の名称について「旧東川駅跡再開発プロジェクト」を新たに用いることとしました。

尚、本プロジェクトは一貫して、「東川町新まちづくり計画 2024」で示している「『対話と参加』によるまちづくり」を基本姿勢として進めています。

3. これまでの検討経過 P 4～P 5

これまでに、懇談会、住民説明会・タウンミーティング、有識者会議、東京・上士幌視察、隈事務所、田根事務所によるプラン提示など、複数のプロセスを経て検討を重ねてきております。

7月にはタウンミーティング、11月1日には住民説明会を開催したほか、議会に対しても必要に応じて、構想策定の進捗と考え方を共有しています。

また、議論の具体化と実現可能性の検証を目的に、先進地視察を実施しており、1月13日・14日には、商工会、農協、観光協会、木工会、議員、町職員など計31名で東京都内を訪問し、建築倉庫や「織田コレクション ハンス・ウェグナー展」等を視察しました。展示手法、空間構成、物販・イベント連携、さらには民間主体の運営モデルについて検証を行っております。

1月23日には、懇談会のメンバーを中心に25名で上士幌町を視察し、(株)生涯活躍のまちかみしほろ、(株)Karch を訪問しました。第3セクターの役割分担、

行政との関係性、事業採算構造、持続可能な運営体制の構築プロセスと事業内容・成果・課題などについて確認しております。

これら一連の取組は、単なる施設整備の検討ではなく、文化資源の活用、空間設計の具体化、運営主体のあり方、官民連携の可能性を含め、基本構想の実効性を高めるための検証プロセスと位置づけております。

3月2日には設計会社によるプラン説明会を実施しました。

町内の関係団体より推薦をいただいた29名の委員により構成する懇談会においては、これまで5回の懇談会を開催し、町の課題整理、資源の再評価、ねらい・基本理念・導入機能、機能配置について検討を行い、町が整理した基本構想中間報告について検証を行っています。

懇談会では、「何のための施設か」という目的の明確化が重視され、町民の暮らしに根ざし、学びや交流を生み出す公共的な場とする方向性が共有されています。特に、観光機能への偏りに対する懸念が多く示され、日常的に利用される拠点としての地域交流機能の必要性が確認されました。

さらに、従来型の展示にとどまらず、体験・参加・学びを伴う「使う施設」への転換が求められ、織田コレクションについても保存に加え、活用や発信のあり方が重要な論点となっております。また、子どもや若者を含め、多様な世代が関わり、日常的に利用できる機能への期待が示されました。

空間構成については、レンガ倉庫等の既存資源の活用を基本としつつ、敷地単体で完結するのではなく、中心市街地や既存施設との連携による回遊性の確保など、「町全体で価値を高める」ネットワーク型の視点が求められました。

その他、整備費・運営費の両面における持続可能性の確保や、段階的整備・優先順位付けの必要性が示されています。

4. 既存公共施設 P 6～P 7

町内の既存公共施設について、行政・地域コミュニティ拠点、文化・学びの拠点、観光拠点、産業拠点として、各施設単体では一定の役割を果たしていると評価される施設も一部あるものの、町全体としての回遊等を促す視点においては課題があるものと考えています。

5. 旭川電気軌道東川線・東川駅跡地について P 8～P 9

検討してきた機能を実現する場として、構想策定に先立ち、旧東川駅跡に現存する10棟の倉庫の活用検討を行うべく構造調査を実施しました。建物外観の維持を図りつつ利用の有無を含め調査・検証を進めてきましたが、対象建物群は、歴史的建造物という位置付けにおいては、時代的には新しいという指摘もありますが、駅舎が現存しない状況では東川町の発展の歴史をとどめる重要な建物群であると考えられます。

その上で、一部の建物については構造上の問題等から撤去し、その他の建物については一定程度の建物の構造補強等を実施し活用することを仮定とする整理をしております。

6. 本構想の政策的・計画的な位置づけ P11～P15

本プロジェクトは、以下の上位計画・関連計画と密接に連動しています。これらを個別施策ではなく、地域の直面する課題を横断的に解決する基盤として位置づけており、「分野横断型プロジェクト」である点を重要視しております。

(1) 『新まちづくり計画 2024』との関係

本町が直面する以下の7つの課題への対応を前提としています。

- ① 地域コミュニティの持続
- ② 産業振興と外貨獲得
- ③ 子ども・若者の定着
- ④ 高齢者を含めた生活の安心
- ⑤ 交通体系の再構築
- ⑥ 環境・ゼロカーボン対応
- ⑦ 観光と地域資源活用

(2) 『ひがしかわ価値創造計画』との関係

中心市街地の役割として掲げる「暮らしの魅力の発信」、「人と地域をつなぐ拠点」を具体化する中核施策と位置づけています。

(3) 文化政策・産業政策との統合

本構想は以下を統合的に扱う点に特徴があります。

- ① 文化政策（織田コレクション等）
- ② 産業政策（家具・農業・観光）
- ③ 教育・人材育成
- ④ コミュニティ政策

7. 基本的な方向性 P17

本構想における基本的な考え方は、「町全体がデザインミュージアム」であります。

これは、従来のように施設単体で機能を完結させるのではなく、町内に点在する行政・地域コミュニティ拠点、文化・学びの拠点、観光拠点、産業拠点、自然環境、暮らしの場などを相互に結びつけ、旧東川駅跡を起点（ハブ）としてそれらを回遊し体験することにより、東川町の価値を総合的に感じられる構造を形成するものです。

さらに、その体験を通じて、新たな関係の創出、学びの深化、活動の発展へとつながる「価値の循環」のエコシステムを生み出すことを目指すため、以下の構造により整理します。

(1) 面（町全体）

町全体を一つのミュージアムと捉え、既存施設、産業、自然、暮らし、文化資源等を価値創出の基盤として位置づけます。

(2) 線（回遊）

各施設や資源をつなぐ回遊動線を構築し、テーマ性やストーリー性を持った

体験の連続性を創出します。

また、主動線に加え、「裏参道※」等の多様な回遊軸を形成することで、滞在の深化と新たな発見を促します。

※主要動線に対する副次的な回遊ルートを指す

(3) 点（旧東川駅跡）

旧東川駅跡は、町全体の回遊の起点となる拠点として位置づけます。そのため、単なる導入機能にとどまらず、人・情報・活動が交差し、関係性を生み、価値創出へとつなげるハブ機能を担う拠点とします。また、既存公共施設との接続により、町全体の価値を可視化し、回遊を促進する役割を担います。

(4) 空間

本施設は、交流・創造・学びが相互に作用し、新たな関係の創出、活動の発展、価値の生成が連続的に生まれる空間とし、集客機能のみを目的とするものではなく、町民の居場所として日常利用を基本としつつ、来訪者との接点を生み出す「日常と交流が両立する拠点」として位置づけます。

8. 基本理念・導入機能 P18

基本理念について、本プロジェクトでは、「東川の魅力に触れ、学び、人とながりながら、東川らしい豊かな暮らしを育む拠点」として位置づけております。東川町には、豊かな自然環境、家具・木工をはじめとする産業、そして長年にわたり培われてきた文化や暮らしがあります。

本施設は、これらの資源を単に展示するのではなく、その背景にある歴史や価値を学び、体験し、次につなげていく場として整備するものであり、4つの方針を掲げました。

一つ目は、「東川の暮らしを支えてきた生活・産業・文化の歩みを学べる場」です。過去から現在に至る東川の営みを知ることで、地域の価値を再認識し、次の時代へとつなげていくことを目的としております。

二つ目は、「多様な人々が地域の活動に参加し、人と人がつながる場」です。町民はもとより、町外から訪れる人も含め、多様な主体が関わり合うことで、新たな交流や活動が生まれることを想定しております。

三つ目は、「世界と共に、新しい価値を探究し発信する場」です。東川の魅力を外に伝えるとともに、外からの知見や人材を受け入れることで、新たな文化や価値の創出につなげていくことを目指しております。

四つ目は、「町民にとって日常的でかけがえのない居場所」であることです。本施設は、特別な目的がなくても立ち寄ることができる、日常の延長にある公共空間として、町民の暮らしに寄り添う存在であることを重視しております。

このように、本施設は、「学び」「交流」「発信」「日常」といった要素が相互に関わりながら、人と価値が循環し続ける拠点となることを目指しております。

本施設に導入する機能については、4機能として整理しています。

一点目は、文化に資する機能です。

東川の暮らしの源流である、生活・産業・文化の歴史等を知ることができる機能とともに、織田コレクションを核として、国内外との交流を促進し、新たな文化価値の創出につなげていく機能です。

二点目は、学びに資する機能です。

町内外の多様な主体との協働を通じて、体験や活動、学び合いの機会を創出・支援し、「学ぶ」「働く」「暮らす」といった営みを一体的に捉えながら、定住や新たな地域活動の創出につなげていく機能です。

三点目は、地域に社会的・経済的価値を生み出す機能です。

東川の産業の魅力を広く発信するとともに、多様な主体との連携により、新たな価値を創出していく機能です。

四点目は、コミュニティづくりに資する機能です。

まちづくり団体の活動や取組を広く発信する機能や、町民が日常的に集い、憩い、交流し、イベント等を行うことができる居場所機能を位置づけています。

これらの機能は、それぞれ独立するものではなく、相互に連携しながら、人の流れや活動、価値の循環を生み出す構造として整理し、具体的な機能については、展示・収蔵・交流・居場所等を要素として見込んでいます。

9. 町全体がデザインミュージアム P19～P20

本プロジェクトの基本的な考え方として、町全体をウォークアブルな学びと体験の場とする「町全体がデザインミュージアム」の考えのもと、旧東川駅跡に導入する機能については、町内既存公共施設が有する機能と役割を検証したうえで、これらとの連携・補完を基本としつつ、既存施設のみで十分か、新設及び充足すべきかを検討したうえで、まち全体としての機能の深化や相乗効果創出を図ることを基本とします。

既存施設が担っている機能については、引き続き各施設の役割として位置づけた上で、旧東川駅跡は、それらをつなぎ、補完し、一体的に機能させるほか、連携による相乗効果を担うものとして整理しております。

回遊については、交通・情報・プログラムを組み合わせた実効的な仕組みとして、基本計画において具体化を見込んでいます。

10. 機能配置の考え方 P21～P22

旧東川駅跡は、文化創造エリアと地域交流エリアという2つのエリアで構成されることを見込んでいます。

文化創造エリアは、文化資源の保存・研究・活用・発信を担い、町と世界をつなぐ役割を担い、織田コレクションをはじめとする文化資源の収蔵、展示、価値発信を機能としています。

一方、地域交流エリアは、町民や来訪者が集い、活動・交流するなど、日常的に利用できる場としての役割を持つエリアです。町民の日常的な利用や活動を支える交流、居場所、情報発信、イベント、町の価値を創出するコミュニティビジネス、簡易な飲食や物販、路面電車の展示などを機能としています。

旧東川駅跡は、これら2つのエリアの機能が交わることで、世界と共に新しい価値を探究し発信する構造とし、文化と日常、町内と町外、学びと活動が交差することで、本施設の価値が最大化されることを目指します。

理念、機能、空間構成を一体として整理し計画を進めることで、旧東川駅跡が「東川の魅力に触れ、学び、人とつながりながら東川らしい豊かな暮らしを育む拠点」として位置づけられると想定しています。

具体的な空間構成として、ストレージ（約2,500 m²）、展示・ロビー・オフィス（約600 m²）、パブリックスペース（約700 m²）、多目的ホール（約300 m²）、屋外広場といった構成を見込んでいます。

特にストレージについては、織田コレクションを中心とした収蔵機能として位置づけており、公開型収蔵や既存拠点における展示との連携も視野に入れています。一方、パブリックスペースや屋外広場は、町民の日常的な利用を支える町内に点在する居場所機能の中核として位置付けます。

既存倉庫の活用について、レンガ倉庫、石積倉庫の4棟については、原則として保存・活用とし、不足する機能については新築で補完することで、歴史的価値と機能の両立を図ることとしております。

その他、プラットフォームや記念碑の活用、交通動線の検討、道路の交通制限の検討、収蔵対象文化財の整理なども必要な事項として見込んでいます。特に収蔵については、織田コレクションは駅跡を主たる収蔵拠点としつつ、他の文化財は既存施設との役割分担を前提とするという整理としております。

11. 今後の検討 P23～27

基本構想については、施設の詳細な機能や配置を定めるものではなく、「町全体のまちづくりの方向性を示すもの」として、拠点の位置づけ（文化／観光／日常）、デザインミュージアムの解釈と範囲、導入機能としており、本構想で整理した考え方を基に、基本計画において、規模・配置、事業手法（直営／指定管理等）、運営主体、交通・駐車場、財政スキーム等の詳細化を見込んでいます。

本構想は施設の詳細な与件を示すものではなく、方向性と考え方を示すものであり、規模・事業費等はあくまで検討の前提条件としての試算を行うものです。

旧東川駅跡再開発における現時点での事業費および運営費の試算について、現段階の条件および仮定に基づくケーススタディであり、今後の設計検討により変動する可能性があるという前提で整理しています。

概算事業費は約36億円～45億円規模と試算。地域未来交付金（20億円規模）や起債、一般財源を組み合わせた多角的な財源構成を見込んでおり、総事業費の約6割以上を国庫補助、地方交付税でカバーするほか、実質的な町負担分14.6億円についてはふるさと納税による確保を見込むなど、持続可能な財源モデル

を検討するほか、整備費については、約 40 億円規模への最適化を前提に検討を進めます。

なお、年間の運営費については、延床約 4,000 m²を前提として、年間約 1.1 億円程度と試算しております。

本施設は単体収益による自立運営を前提とするものではなく、交流人口の創出、地域内経済循環、関係人口の拡大等の波及効果を含めた事業として評価する位置づけを見込んでいます。

事業運営については、町の現状や本事業の趣旨を踏まえ、例えばまちづくり会社による運営への参画等の可能性も視野に入れるなど、行政単独ではなく、民間・地域主体との役割分担を視野に入れた持続可能な運営体制の構築を検討します。

本プロジェクトの検討にあたっては、対象地周辺の住民、特に東町 2 丁目の皆様の生活環境への影響について、最重要事項の一つとして位置づけます。今後の基本計画及び設計段階においては、動線分断の回避、交通影響、騒音・景観、既存生活機能の維持など、地域住民への説明及び対話の機会を確保し、その意見を十分に踏まえながら、生活環境との調和を最優先として検討を進めるものとします。

今後のスケジュールの見通しについて、一般的な例に置き換えて整理したもので、今後の検討状況や採用する事業手法により、スケジュールは異なる可能性があります。

基本構想を策定した後、本事業にかかわる導入機能の詳細化、施設計画、管理運営計画、概算事業費、事業手法等の検討を通じ、基本計画として取りまとめます。その後基本計画で整理した条件に基づき、設計・建設・開業準備を、令和 9 年度以降に進めることを見込んでいます。また、整備は全体を一度に行うのではなく、初期整備においては、コア機能から段階的に機能拡張を図る可能性もあり、施設の供用開始も段階的になることも想定をしています。

町では、引き続き丁寧な検討を重ねながら、懇談会・町民・議会に情報共有を行いながら、町民の皆様とともに、東川らしい再開発プロジェクトの実現に向けて取り組んでまいります。

12. まとめ

本構想は、「町全体を舞台とした地域価値共創の仕組みをデザインするプロジェクト」として、「施設をどうつくるか」ではなく「持続的に町の価値をどう高めるか」という問いに対する現時点での仮説です。

第 6 回懇談会では、委員の皆様から率直なご意見をいただき、基本構想（案）としてまとめて参りたいと考えておりますので、引き続き、ご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

旧東川駅跡再開発プロジェクト

第 5 回懇談会開催結果

2026年 5 月
東川町

第5回懇談会における主なご意見

- ・ 第5回懇談会では、基本構想骨子案の内容を検証するワークを行いました。
- ・ 主として下記について、意見が寄せられました。

第5回懇談会での主なご意見

No.		主なご意見
1	空間構成・配置・動線の不明確さ	・ 既存施設（せんとぴゅあ、道草館、そらいろ、郷土館等）との役割の重複が懸念されるため、旧東川駅跡の役割を明確化する必要がある ・ 観光、文化、日常利用の優先順位付けが必要である。また、エリアについては一体的に捉える方向性もある ・ 自動車でのアクセス等も想定される中で、駐車場、周辺住民の生活動線への配慮、通行の安全性等に懸念がある
2	導入機能の曖昧さ	・ 具体的な機能や事業に対する提案（新たな価値を生み出す場とすべき、道草館はじめ周辺施設との関係の中で飲食・物販等機能を検討すべき、学びや体験のコンテンツ、町民の日常的居場所、ライブハウス等） ・ 今後の検討においてさらに各機能のターゲットや中身の詳細を議論する必要がある
3	町民利用と観光のバランス	・ 町民が様々な活動に活用できるフレキシブルな空間が必要、地域交流エリアについても地域に閉じず対象を広くとらえるべき、観光はじめ外部の来訪者向けの機能に重点を置くべき等、様々な意見あり
4	運営体制・持続性への不安	・ 継続的に人を呼び込めるようなコンテンツ、仕組み、今後の展開に向けた余白が必要である ・ 適切なテーマ設定や周知が重要である
5	町全体との関係性	・ ストーリーを大切にしながら、他の既存施設と文化資源の保存／展示場所としての連動を図るべきである ・ 様々な回遊手段を検討し、裏通りや路地裏含め、魅力を伝えていく必要がある ・ 現状では様々な施設やイベントが分散しているが、一元的な情報発信が必要である

基本構想案更新の考え方

第5回懇談会までにいただいたご意見を踏まえ、下記の考え方に沿って基本構想案を更新します。

1. 基本理念

本プロジェクトは、東川町の自然、産業、歴史、暮らしといった多様な地域資源の価値＝文化に触れ、学び、人と人がつながることを通じて、東川らしい豊かな暮らしを育むことを基本理念とします。また、その実現にあたっては、「町全体がデザインミュージアム」の考え方に基づき、旧東川駅跡と町内に点在する既存施設や地域資源を結びつけ、来訪者がそれらを回遊しながら体験することにより、単一施設としての完結ではなく、町全体の価値を高めることを図るものとします。また、町内外の人々が主体となって活動し、新たな価値を生み出す「場」を形成することを重視します。

2. 旧東川駅跡の位置づけ

町全体と、その中での旧東川駅跡の位置づけについて、以下の構造により整理します。

(1) 面（町全体）町全体を一つのミュージアムと捉え、地域資源や既存施設を価値創出の基盤として位置づけます。

(2) 線（回遊）各施設や資源をつなぐ回遊動線を構築し、テーマ性やストーリー性を持った体験の連続性を生み出します。あわせて、主動線に加え、「裏参道」のような新たな回遊軸の形成により、多様な滞在と発見の機会を創出します。

(3) 点（旧東川駅跡のほか公共施設など）旧東川駅跡は、町全体の回遊の起点として、道の駅などの既存施設への接続とともに、来訪者と町民が交わる場としての役割を担う拠点と位置付けます。

3. 空間構成の基本的考え方

本施設の空間構成については、2つのエリアを完全に分離したものと位置付けるのではなく、エリア間の相互作用の創出を図ります。また、機能を過度に固定するのではなく、利用者や活動に応じて柔軟に変化することができる「余白」を持たせることで、継続的に価値が生まれる場とすることを想定します。

4. 導入機能の考え方

導入機能については、以下の視点に基づき整理するとともに、基本計画段階においてさらなる詳細化を進めます。

- ・ 既存施設と連携し、それぞれの機能を相互に補完・深化させながら、本施設は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する。
- ・ 地域の産業や文化の背景（由来）を学び、それを新たな価値へとつなげる機能を導入する。
- ・ 「農と食」「ものづくり」などをテーマとした体験型のプログラムやワークショップを展開する。
- ・ 町民の日常利用と来訪者の利用の双方を前提としつつ、利用特性に応じた空間・機能の整理を行う。
- ・ 地域の人材や事業者が参画し、新たなサービス・活動が生まれる仕組みを構築する。

5. 周辺生活環境への配慮

本施設の整備に伴い、対象地を縦断する中央道路における歩行者安全性の確保が重要な課題となります。将来的な交通量の増加を踏まえ、安全性に関する課題を可視化するとともに、車両通行の制限や代替道路の整備などの必要性の有無、生活動線と来訪者動線の分離等、課題への対応策について検討を進めます。また、対象地周辺の住民の皆様には、基本構想段階から説明と対話を行い、ご意見を踏まえた検討を行います。

6. 今後の検討の方向性

本基本構想は、施設の詳細な機能や配置、事業費を確定するものではなく、「町全体の構造と方向性を示すもの」として位置づけます。今後は、本構想で整理した考え方を基に、基本計画において、運営手法の検討を基軸として、空間構成や機能配置等の具体化を図ります。

第5回懇談会でのご意見整理結果

①空間構成・配置・動線の不明確さ

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート① (中心市街地)	真ん中の道：安全面としてなくてほしい	構想案を修正	駅跡を縦断する、北4条道路につながる道の要否については、近隣からも様々なご意見を頂戴していることから、それらを踏まえて引き続き検討します。なお、歩行者安全性を含め、周辺住民の生活への影響配慮を本プロジェクトの最重要事項の一つと位置づけ、基本構想上でも明記することとします。
ワークシート① (中心市街地)	道草館周辺がせまい	他施策において検討	旧東川駅跡における交通結節機能や駐車機能のあり方については、基本計画において具体的に検討するものとします。また、道の駅周辺については、駐車場確保を含め再整備の検討を進める方針です。本事業と連動させながら、引き続き検討を進めます。
ワークシート① (中心市街地)	駐車場問題。周辺住民への配慮	構想案を修正	旧東川駅跡は回遊の起点としての役割を担うことから、徒歩だけでなく自動車利用も含めた実効性のある移動体系を前提とし、交通結節機能や駐車機能のあり方については、基本計画において具体的に検討するものとします。なお、周辺住民の生活への影響配慮を本プロジェクトの最重要事項の一つと位置づけ、基本構想上でも明記することとします。
ワークシート① (中心市街地)	駅跡を駅にして復活！ バスターミナルとしての機能など（バスを通す）	他施策において検討	旧東川駅跡は回遊の起点としての役割を担うことから、徒歩だけでなく自動車利用も含めた実効性のある移動体系を前提とし、交通結節機能や駐車機能のあり方については、基本計画において具体的に検討するものとします。また、公共交通の拠点としては、道草館横にバスまちあい交流施設の整備を予定しています。現時点では、例えば路面電車を配置することにより、旧東川駅跡の駅としての歴史を活かすことを想定しています。
ワークシート① (中心市街地)	子供達が来た時に、そらいろとの区分け	中長期的に検討	既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。例えば地域の産業や文化の背景（由来）を学び、それを新たな価値へとつなげること、事業の趣旨に沿ったテーマに基づく体験型のプログラムやワークショップを展開すること等を念頭におきながら、基本計画以降で各機能の詳細を検討するものとします。
ワークシート① (中心市街地)	展示部分をせんとぴゅあと被らないか？	中長期的に検討	既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。例えば旧東川駅跡の展示においては、地域の産業や文化の背景（由来）を学び、それを新たな価値へとつなげること等を念頭におきながら、基本計画以降で各機能の詳細を検討するものとします。

①空間構成・配置・動線の不明確さ

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート① (中心市街地)	コミュニティ部分の棲み分け	構想案を修正	機能4②について、各地区コミュニティセンター等との重複を避けるため、まちづくり団体の活動を広く発信する機能と修正します。「町全体がデザインミュージアム」という考え方のもと、まちづくりにかかわる町民の様々な活動を紹介することを想定します。
ワークシート① (中心市街地)	木工ではクラフトピアやせんとうぴゅあの区分け	中長期的に検討	既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。例えば地域の産業や文化の背景(由来)を学び、それを新たな価値へとつなげること、事業の趣旨に沿ったテーマに基づく体験型のプログラムやワークショップを展開すること等を念頭におきながら、基本計画以降で各機能の詳細を検討するものとします。
ワークシート① (広域)	自動運転バス必要?	中長期的に検討	旧東川駅跡は回遊の起点としての役割を担うことから、徒歩だけでなく自動車利用も含めた実効性のある移動体系を前提とし、交通結節機能や駐車機能のあり方については、基本計画において具体的に検討するものとします。
ワークシート② 旧東川駅跡が果たす役割	エリアを一つにまとめてはどうだろうか	構想案の趣旨と一致	旧東川駅跡の空間構成については、2つのエリアを完全に分離したものと位置付けるのではなく、エリア間の相互作用の創出を図ります。また、機能を過度に固定するのではなく、利用者や活動に応じて柔軟に変化することができる「余白」を持たせることで、継続的に価値が生まれる場とすることを想定します。
ワークシート② 旧東川駅跡が果たす役割	車社会である。ウォークアブルに無理があるのでは?	中長期的に検討	旧東川駅跡は回遊の起点としての役割を担うことから、徒歩だけでなく自動車利用も含めた実効性のある移動体系を前提とし、交通結節機能や駐車機能のあり方については、基本計画において具体的に検討するものとします。
ワークシート② 導入機能	道草館をはじめ、家具木工クラフト農産物などを販売する施設が多数ある(5か所程)	構想案の趣旨と一致	本構想は「町全体の構造と方向性を示すもの」として位置づけ、機能の詳細な内容や空間構成、機能配置は基本計画で整理します。ただし、ご指摘のとおり、既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。

①空間構成・配置・動線の不明確さ

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート② 導入機能	優先順位は必要か？観光、文化、 日常利用	中長期的に 検討	導入機能については、以下の視点に基づき整理するとともに、基本計画段階においてさらなる詳細化を進めます。 ・既存施設と連携し、それぞれの機能を相互に補完・深化させながら、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する。 ・地域の産業や文化の背景（由来）を学び、それを新たな価値へとつなげる機能を導入する。 ・「農と食」「ものづくり」などをテーマとした体験型のプログラムやワークショップを展開する。 ・町民の日常利用と来訪者の利用の双方を前提としつつ、利用特性に応じた空間・機能の整理を行う。 ・地域の人材や事業者が参画し、新たなサービス・活動が生まれる仕組みを構築する。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	子どもたちが、喜んであそぶデザイン性 ある広場空間	中長期的に検討	基本構想においても憩いや交流、イベント等の場としての屋外広場を想定する空間として位置づけていますが、各機能の詳細や空間計画については、ご意見を踏まえ、基本計画段階において検討します。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	モビリティをにおいては？	中長期的に検討	旧東川駅跡は回遊の起点としての役割を担うことから、徒歩だけでなく自動車利用も含めた実効性のある移動体系を前提とし、交通結節機能や駐車機能のあり方については、基本計画において具体的に検討するものとします。また、公共交通の拠点としては、道草館横にバスまちあい交流施設の整備を予定しています。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	多目的ホール せんとびゅあ講堂：イベント活用としての 需要。クリスマスマーケット、家具の イベント	構想案の趣旨と一致	多目的ホールについては、22号倉庫を活用し、コンパクトな空間として整備します。他方、屋外広場は、活用方法について近隣の住民とも協議しながら、幅広くイベントに活用可能な空間とすることを想定します。既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	せんとびゅあⅠ、Ⅱ：学生が多い。勉強。 そらいろ：親子、大人が多い印象	構想案の趣旨と一致	特にパブリックスペースについては、静粛が求められるせんとびゅあと、体を動かす遊び等活動的なそらいろの中間的な性質を持つ、憩いや交流の場とすることを想定しています。既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。

①空間構成・配置・動線の不明確さ

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート③ 機能配置の 考え方	路面電車の必要性。ストーリーは良いが郷土館でも・・・	構想案の趣旨と一致	ご指摘のとおり、路面電車については駅跡の歴史を伝えるための展示物として位置づけ「機能配置の考え方 旧東川駅跡」においても駅跡の歴史を示す路面電車と表記します。また、特に町の歴史にかかわる展示の方向性については、郷土館との関係性を整理しつつ、基本計画以降においてより具体的に整理します。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	路面電車：産業史との関係の中で紹介するならOK	構想案を修正	ご指摘のとおり、路面電車については駅跡の歴史を伝えるための展示物として位置づけ「機能配置の考え方 旧東川駅跡」においても駅跡の歴史を示す路面電車と表記します。また、特に町の歴史にかかわる展示の方向性については、郷土館との関係性を整理しつつ、基本計画以降においてより具体的に整理します。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	屋外広場に大屋根があれば、冬でも遊具使える。雨天関係なくイベントできる	中長期的に検討	本基本構想は、「町全体の構造と方向性を示すもの」として位置づけます。基本構想においても屋外広場やパブリックスペース等、屋内外でイベントでの活用が可能な空間を想定しますが、各機能の詳細や空間計画については、ご意見を踏まえ、基本計画段階において検討します。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	チカホの機能を持つスペース。車が上、人や自転車は屋根の下	中長期的に検討	本基本構想は、「町全体の構造と方向性を示すもの」として位置づけ、基本計画以降で空間構成や機能配置等の具体化を図ります。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	(パブリックスペース) 駐車場。アクセスが大事	中長期的に検討	旧東川駅跡は回遊の起点としての役割を担うことから、徒歩だけでなく自動車利用も含めた実効性のある移動体系を前提とし、交通結節機能や駐車機能のあり方については、基本計画において具体的に検討するものとしします。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	「町全体がデザインミュージアム」敷地全体を統一的に考えては	構想案の趣旨と一致	旧東川駅跡の空間構成については、2つのエリアを完全に分離したものと位置付けるのではなく、エリア間の相互作用の創出を図ります。また、機能を過度に固定するのではなく、利用者や活動に応じて柔軟に変化することができる「余白」を持たせることで、継続的に価値が生まれる場とすることを想定します。また、詳細な事業スキーム、運営形態等は、基本計画以降に検討するものとしします。

②導入機能の曖昧さ（何をする施設か）

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート① (広域)	連携した中での製品開発。ビジョンも同じ	構想案の趣旨と一致	商業については道草館でより中心的に扱うこととし、旧東川駅跡ではコミュニティビジネス等に重点を置くものとして整理します。
ワークシート① (広域)	定期的に1ヶ月に木工1個のモノ作りをする。教室のようにする。 デザイナーやクラフトマンのお話会の開催	中長期的に検討	本基本構想は、「町全体の構造と方向性を示すもの」として位置づけます。各機能の詳細については、ご意見を踏まえ、基本計画段階において検討します。また、機能の詳細検討に際しては、旧東川駅跡の趣旨を踏まえたテーマ設定のうえ、体験型のプログラムやワークショップを展開する観点を持つこととします。
ワークシート① (中心市街地)	例えば、道草館をデザインミュージアムを含めた町内のインフォメーションセンターとする。Monbellを地元の作り手、農工商のモノの販売所とする。簡単なコーヒースタンドの設置。	中長期的に検討	本基本構想は、「町全体の構造と方向性を示すもの」として位置づけます。各機能の詳細については、ご意見を踏まえ、道草館との役割分担のあり方等も考慮しながら、基本計画段階において検討します。
ワークシート① (中心市街地)	農産直売所、イトインと道の駅に ●●	構想案を修正	パブリックスペースでは、交流や憩いに資する範囲での飲食・物販機能を考えるものとし、詳細については基本計画以降で検討することとします。既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。
ワークシート① (中心市街地)	簡易的な飲食箇所は必要	構想案を修正	パブリックスペースでは、交流や憩いに資する範囲での飲食・物販機能を考えるものとし、詳細については基本計画以降で検討することとします。既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。
ワークシート② 基本理念(案)	1. 文化に資する〔由来や歴史〕 ↓ 3. 新たな価値や商品を創出していく	構想案の趣旨と一致	お見込みのとおり、本プロジェクトでは、地域の生活・産業・文化の背景（由来）を学び、それを新たな価値へとつなげていくことを目指します。ただし、商業については旧東川駅跡ではなく、道草館等においてより中心的に扱うものとし、

②導入機能の曖昧さ（何をする施設か）

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート② 旧東川駅跡が果たす役割	家具産業に特化したとしよかん	他施策において検討	各機能の具体的な内容については基本計画段階での検討事項としますが、機能の詳細検討に際しては、地域の産業や文化の背景（由来）を学び、それを新たな価値へとつなげる観点や、旧東川駅跡の趣旨を踏まえたテーマ設定のうえ、体験型のプログラムやワークショップを展開する観点を持つこととします。
ワークシート② 旧東川駅跡が果たす役割	産業の歴史がわかるところがあっても木工やお菓子などの歴史がわからないので、そういうものがあっても良いのではないか？	中長期的に検討	本プロジェクトでは、地域の生活・産業・文化の背景（由来）を学び、それを新たな価値へとつなげていくこと、例えば「農と食」「ものづくり」など、旧東川駅跡の趣旨に沿ったテーマに基づく体験型のプログラムやワークショップを展開すること等を視野に入れながら、基本計画以降において、機能の詳細検討を進めるものとします。
ワークシート② 旧東川駅跡が果たす役割	クラフトピアは技術としての家具。家具文化は駅跡で扱うとしてはどうか	構想案の趣旨と一致	ご指摘のとおり、CRAFTPIAは家具産業の振興や技術継承による人材育成、旧東川駅跡においては文化としての家具や、その歴史により焦点を当てる整理とします。
ワークシート② 旧東川駅跡が果たす役割	物販している場所で、物に対する由来や歴史などの表示や展示があっても良い	中長期的に検討	本プロジェクトでは、地域の生活・産業・文化の背景（由来）を学び、それを新たな価値へとつなげていくことを視野に入れながら、基本計画以降において、機能の詳細検討を進めるものとします。
ワークシート② 旧東川駅跡が果たす役割	オダコレ以外の町の文化資源についての発信力をもたせたい	中長期的に検討	各機能の具体的な内容については基本計画段階での検討事項としますが、基本理念において、旧東川駅跡は「東川の暮らしを支える、生活・産業・文化の歩みを学べる場」と位置付けます。
ワークシート② 導入機能	ライブハウス。演舞・演技場	構想案の趣旨と一致	講演や楽器練習等が可能な場として、多目的ホールを想定します。
ワークシート② 導入機能	学びあい、町のをつなぐ学びあいのプラットフォーム。具体的な中身は議論が必要	中長期的に検討	ご指摘の趣旨を踏まえ、各機能の詳細については基本計画以降で検討するものとします。

②導入機能の曖昧さ（何をする施設か）

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート③ 機能配置の 考え方	（テーマ）的をもっと絞ってみる。パブリックスペース	構想案の趣旨と一致	パブリックスペースについては、ある程度柔軟な活用を可能にする空間としつつ、ご指摘のとおりデザイン、文化と一定の関連性を持たせた場とすることを想定します。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	物販は絵本・画材・オリジナル（イスの木工）など単なるおみやげではない。	構想案を修正	パブリックスペースでは、交流や憩いに資する範囲での飲食・物販機能を考えるものとし、詳細については基本計画以降で検討することとします。また、「簡易な」の趣旨としては、主たる機能とはしないことを想定します。既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	“簡易な飲食”ではなくスペシャルなもの、長い期間大切にできるもの、関連性のもの	構想案を修正	パブリックスペースでは、交流や憩いに資する範囲での飲食・物販機能を考えるものとし、詳細については基本計画以降で検討することとします。また、「簡易な」の趣旨としては、主たる機能とはしないことを想定します。既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	飲食は周囲の店に回遊をうながす方法もあり	構想案を修正	パブリックスペースでは、交流や憩いに資する範囲での飲食・物販機能を考えるものとし、詳細については基本計画以降で検討することとします。また、「簡易な」の趣旨としては、主たる機能とはしないことを想定します。既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	物販は簡易でなくてよい。ここだから手に入る意義あるものを	構想案を修正	パブリックスペースでは、交流や憩いに資する範囲での飲食・物販機能を考えるものとし、詳細については基本計画以降で検討することとします。また、「簡易な」の趣旨としては、主たる機能とはしないことを想定します。既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	ホクレンショップを移動したい	構想案を修正	パブリックスペースでは、交流や憩いに資する範囲での飲食・物販機能を考えるものとし、詳細については基本計画以降で検討することとします。既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。

②導入機能の曖昧さ（何をする施設か）

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート③ 機能配置の 考え方	簡易な飲食・物販等の利便・滞在機能：道の駅	構想案の趣旨と一致	旧東川駅跡は、ミュージアムやコミュニティビジネス等、公益性を重視した活動の拠点と位置づけます。物販や飲食は道草館や既存店舗への回遊を促すことで、市街地全体として消費活動を活発化させることを想定します。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	新たな価値を創出する×コミュニティビジネス→〇産業の付加価値向上	構想案の趣旨と一致	商業については道草館でより中心的に扱うこととし、旧東川駅跡ではコミュニティビジネス等に重点を置くものとして整理します。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	商品の物語を伝える パブリックスペース：東川スタイル館として、過去～現在	中長期的に検討	本プロジェクトでは、地域の生活・産業・文化の背景（由来）を学び、それを新たな価値へとつなげていくことを視野に入れながら、基本計画以降において、機能の詳細検討を進めるものとします。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	新しい価値の創出→具体的には事務所が必要	構想案の趣旨と一致	機能3において本事業を通じて新たな価値を創出することとしています。また、特にパブリックエリアについて、まちづくり会社等が運営の担い手となる可能性を視野に入れながら、今後の検討を進めるものとします（なお、商業や観光については、旧東川駅跡ではなく、道草館等において中心的に扱うものとして整理します）。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	過去のものを見せるのみならず、そこから新たなものを作る	構想案の趣旨と一致	ご指摘のとおり、本事業の基本理念では、「世界と共に新しい価値を探究し発信する」ことを目指します。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	簡易な飲食・物販機能：慎重な検討が必要。道の駅との関係の中で考えるべき。家具のある空間を楽しむ趣旨の範囲ならありうるか？	構想案を修正	パブリックスペースでは、交流や憩いに資する範囲での飲食・物販機能を考えるものとし、詳細については基本計画以降で検討することとします。既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	物販はミュージアムショップ的に	構想案を修正	パブリックスペースでは、交流や憩いに資する範囲での飲食・物販機能を考えるものとし、詳細については基本計画以降で検討することとします。また、「簡易な」の趣旨としては、主たる機能とはしないことを想定します。既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。

②導入機能の曖昧さ（何をする施設か）

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート③ 機能配置の 考え方	地域交流エリア パブリックスペースの活用。町民の日常的な居場所。特に学ぶ場、働く場としての活用スペース	構想案の趣旨と一致	ご指摘のとおり、パブリックスペースは町民の日常的な居場所として、学びやコミュニティビジネスを含め、様々な活動に活用できる場とすることを想定します。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	中途半端なスペースより、大きなスペースにして、多様なイベントに対応できるクリスマスマーケットやチャリティービルパーティー	構想案の趣旨と一致	多目的ホールについては、22号倉庫を活用し、コンパクトな空間として整備します。他方、屋外広場は、活用方法について近隣の住民とも協議しながら、幅広くイベントに活用可能な空間とすることを想定します。既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	屋台村のようなチャレンジ店舗（キッチンとか）があるといい。大屋根の中	中長期的に検討	基本構想においても憩いや交流、イベント等の場としての屋外広場を想定する空間として位置づけていますが、各機能の詳細や空間計画については、ご意見を踏まえ、基本計画段階において検討します。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	貸出なら物流の要素も必要	中長期的に検討	基本計画以降の施設にかかわる検討において、適切な搬出入が確保されるよう配慮を行います。

③町民利用と観光のバランス

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート① (中心市街地)	コミュニティづくり：パブリックスペース 日常、そうじゃないか	構想案の趣旨と一致	パブリックスペースについては、「機能配置の考え方 旧東川駅跡」において、主として町民の日常的な居場所と位置づけています。
ワークシート① (広域)	住民と観光客のグラデーションがある 施設は難しいのでは？	構想案の趣旨と一致	「機能配置の考え方 旧東川駅跡が果たす役割」において示したように、文化創造エリアは町と世界をつなぐ、すなわち観光利用を一定めざすものとしつつ、地域交流についてはより町民の活動の場や居場所としての役割を重視する等、駅跡においてもターゲットにメリハリをつけることを想定します。
ワークシート① (広域)	森や施設を生かした東川独自のイベントの開催。宿泊者を対象として朝市や物販スペースを作る。管理のみお願いします。	他施策において検討	本基本構想は、「町全体の構造と方向性を示すもの」として位置づけます。基本構想においても屋外広場やパブリックスペース等、イベントでの活用が可能な空間を想定しますが、各機能の詳細や空間計画については、ご意見を踏まえ、基本計画段階において検討します。
ワークシート① (広域)	DMOで長期滞在型ツアーによる公共施設の利用促進を図る	他施策において検討	観光については、道草館においてより中心的に取り扱うことを想定しますが、町内の回遊性向上については、観光関連の施策と合わせて引き続き検討します。
ワークシート① (その他)	コア：感度（高） 写真文化・首都 ピント（低）	構想案の趣旨と一致	町の魅力についてはご指摘のとおりです。
ワークシート① (その他)	東川って：旭岳 リポート 四季	構想案の趣旨と一致	町の魅力についてはご指摘のとおりです。
ワークシート① (その他)	東川って：楽に!! 自然 知らず知らずに来ちゃう	構想案の趣旨と一致	町の魅力についてはご指摘のとおりです。
ワークシート① (その他)	現況など：不足感 観光・発信 色々なことに対し	他施策において検討	本基本構想は、「町全体の構造と方向性を示すもの」として位置づけます。広報のあり方を含め、各機能の詳細や運営形態については、ご意見を踏まえ、基本計画段階において検討します。
ワークシート① (その他)	現況など：混んでいる レジ いつも	他施策において検討	道草館については今後再整備を予定していることから、本事業との関連性を念頭に置きながら、さらなる検討を進めます。

③町民利用と観光のバランス

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート② 基本理念（案）	「観光」の文字・視点があってもよいのでは？	中長期的に検討	旧東川駅跡は町全体の回遊の起点と位置づけ、既存施設で担われている機能との重複を避けながら、基本計画以降において詳細な機能、配置、事業費、空間構成等を検討するものとします。
ワークシート② 旧東川駅跡が果たす役割	外から来た人を案内する施設	構想案の趣旨と一致	旧東川駅跡は、町全体の回遊の起点として、道の駅などの既存施設への接続とともに、来訪者と町民が交わる場としての役割を担う拠点と位置付けます。
ワークシート② 旧東川駅跡が果たす役割	地域交流エリア→文化もしくはデザインの交流エリア 地域のコミュニティ機能は不要ではないか？	構想案を修正	「東川の魅力に触れ、学び、人とつながりながら、東川らしい豊かな暮らしを育む拠点」という本事業の目的を実現する観点からは、地域コミュニティにかかわる機能は必要があると考えます。ただし、機能4②について、各地区コミュニティセンター等との重複を避けるため、まちづくり団体の活動を広く発信する機能と修正します。

③町民利用と観光のバランス

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート③ 機能配置の 考え方	文化創造エリアに世界から人が来ることを想定すると、地域交流エリアは単に地域だけのものではなく、相手を広く考える必要があるのでは？	中長期的に検討	導入機能の詳細等は基本計画段階において検討しますが、その際には町民の日常利用と来訪者の利用の双方を前提としつつ、利用特性に応じた空間・機能の整理を行う視点を持つこととします。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	交流人口に観光。山は無くならない	構想案の趣旨と一致	旭岳をはじめ、自然資源を含め、「町全体がデザインミュージアム」とみなします。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	観光目線でいくと、パブリックスペースは小さくても。 住民目線。	構想案の趣旨と一致	交流や憩い、町民の活動の場については、他の施設にも存在することから、過度な規模にならないよう抑制しながら整備します。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	(パブリックスペース) 自治的なコミュニティより、文化・観光をテーマにする	構想案を修正	機能4②について、各地区コミュニティセンター等との重複を避けるため、まちづくり団体の活動を広く発信する機能と修正します。「町全体がデザインミュージアム」という考え方のもと、まちづくりにかかわる町民の様々な活動を紹介することを想定します。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	町民団体が活動、イベントができるフレキシブルな箱。 機能を固定しない方が、結果、様々なイベントができる	構想案の趣旨と一致	ご指摘のとおり、旧東川駅跡では、機能を過度に固定するのではなく、利用者や活動に応じて柔軟に変化することができる「余白」を持たせることで、継続的に価値が生まれる場とすることを想定します。

④運営体制・持続性への不安

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート① (中心市街地)	利用率等、数値も必要	中長期的に検討	本基本構想は、「町全体の構造と方向性を示すもの」として位置づけ、機能や空間構成、事業費の詳細は基本計画以降で検討するものとします。ただし、既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。
ワークシート① (広域)	公益性と収益性を早く考える	中長期的に検討	旧東川駅跡は、ミュージアムやコミュニティビジネス等、公益性を重視した活動の拠点と位置づけます。物販や飲食は道草館や既存店舗への回遊を促すことで、市街地全体として消費活動を活発化させることを想定します。
ワークシート① (その他)	これから：進めるにあたり「余白」「ゆとり」必要	構想案の趣旨と一致	ご指摘のとおり、旧東川駅跡では、機能を過度に固定するのではなく、利用者や活動に応じて柔軟に変化することができる「余白」を持たせることで、継続的に価値が生まれる場とすることを想定します。
ワークシート② 導入機能	ゴールがスタート。余白も必要なのかなど。色々詰め込みすぎても・・・	中長期的に検討	本構想は「町全体の構造と方向性を示すもの」として位置づけ、各機能の詳細や空間構成は基本計画以降で具体的に検討するものとします。ただし、ご指摘のとおり、機能を過度に固定するのではなく、利用者や活動に応じて柔軟に変化することができる「余白」を持たせることで、継続的に価値が生まれる場とすることを想定します。
ワークシート② 旧東川駅跡が果たす役割	周知の重要性	構想案を修正	事業開始以降の周知は重要と認識しています。また、検討段階においても引き続き積極的な情報発信を継続する旨、構想案に記載します。
ワークシート② 旧東川駅跡が果たす役割	リピートする？その仕組み・コンテンツ。2回目、また来たい、居続けたい？	中長期的に検討	機能の詳細や運営形態については基本計画以降で検討するものとします。ただし、検討に際しては地域の産業や文化の背景（由来）を学び、それを新たな価値へとつなげる視点、例えば「農と食」「ものづくり」などをテーマとした体験型のプログラムやワークショップを展開する視点、町民の日常利用と来訪者の利用の双方を前提としつつ、利用特性に応じた空間・機能の整理を行う視点、地域の人材や事業者が参画し、新たなサービス・活動が生まれる仕組みを構築する視点等を念頭に置くものとします。また、機能を過度に固定するのではなく、利用者や活動に応じて柔軟に変化することができる「余白」を持たせることで、継続的に価値が生まれる場とすることを想定します。

④運営体制・持続性への不安

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート② 旧東川駅跡が果たす役割	食ること→レポート 核となるもの。展示でレポートするの か？	構想案の趣旨と 一致	パブリックスペースでは、交流や憩いに資する範囲での飲食・物販機能を考えるものとし、各機能の詳細については基本計画以降で検討することとします。機能の検討に際しては、単なる展示にとどまらず、地域の産業や文化の背景（由来）を学び、それを新たな価値へとつなげる視点、例えば「農と食」「ものづくり」などをテーマとした体験型のプログラムやワークショップを展開する視点、町民の日常利用と来訪者の利用の双方を前提としつつ、利用特性に応じた空間・機能の整理を行う視点等を念頭に置きます。
ワークシート② 旧東川駅跡が果たす役割	テーマがあるから 人と人がつながる	構想案の 趣旨と一致	ご指摘のとおり、本事業では「町全体がデザインミュージアム」の考え方にに基づき、旧東川駅跡と町内に点在する既存施設や地域資源を結びつけ、来訪者がそれらを回遊しながら体験することにより、単一施設としての完結ではなく、町全体の価値を高めることを図るものとします。また、町内外の人々が主体となって活動し、新たな価値を生み出す「場」を形成することを重視し、基本理念である「東川の魅力に触れ、学び、人とつながりながら、東川らしい豊かな暮らしを育む拠点」の実現を図ります。
ワークシート③ 機能配置の 考え方	（パブリックスペース）ソフト面が重要。 テーマ設定	中長期的に 検討	ご指摘のとおり、整備のみならず、供用開始以後において質の高い運営や活発な利用が行われることが重要であることを踏まえ、運営形態の詳細は基本計画以降で検討することとします。

⑤町全体との関係性（デザインミュージアム）

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート① （中心市街地）	＜バスまちあい交流施設＞ 「地域交通に関して、自治振興会～」という表現はどうか	他施策において検討	自治振興会をはじめとすると地域交通に関してを除き、まちづくりにかかわる団体の活動支援の機能とし、広く地域の交通や交流の拠点と位置付けます。
ワークシート① （中心市街地）	町全体がデザインミュージアムと見た時に、すでに現状で確立しているのではないか	中長期的に検討	本事業では、「町全体がデザインミュージアム」の考え方にに基づき、旧東川駅跡と町内に点在する既存施設や地域資源を結びつけ、来訪者がそれらを回遊しながら体験することにより、単一施設としての完結ではなく、町全体の価値を高めることを図るものとします。ただし、その中で旧東川駅跡は町全体の回遊の起点と位置づけ、既存施設で担われている機能との重複を避けながら、基本計画以降において詳細な機能、配置、事業費、空間構成等を検討するものとします。
ワークシート① （中心市街地）	「タイトル、ネーミングについて」 町全体が東川くらしのデザインミュージアムのようなテーマの方がデザインミュージアムだとイメージが～	構想案の趣旨と一致	ご指摘のとおり、「デザインミュージアム」は一般的な表現ではないため。ただし、基本理念については「東川の魅力に触れ、学び、人とつながりながら、東川らしい豊かな暮らしを育む拠点」とより平易に記載します。
ワークシート① （中心市街地）	散策コース、モデルコース／回り方で一つのテーマが理解できる？ ・移動の方法 ・運営のベース（どの団体）	構想案を修正	旧東川駅跡は回遊の起点としての役割を担うことを想定します。各施設や資源をつなぐ回遊動線を構築し、テーマ性やストーリー性を持った体験の連続性を生み出すことを念頭に置きながら、基本計画段階において具体的な検討を行います。
ワークシート① （中心市街地）	市街地・区域外の回遊しずくラインの活用、バスツアー？	他施策において検討	旧東川駅跡は回遊の起点としての役割を担うことから、徒歩だけでなく自動車利用も含めた実効性のある移動体系を前提とし、交通結節機能や駐車機能のあり方については、基本計画において具体的に検討するものとします。また、公共交通の拠点としては、道草館横にバスまちあい交流施設の整備を予定しています。
ワークシート① （中心市街地）	回遊手段。あるだけではない形はないか？ 説明しながら（人力車等？）	構想案を修正	旧東川駅跡は回遊の起点としての役割を担うことから、徒歩だけでなく自動車利用も含めた実効性のある移動体系を前提とし、交通結節機能や駐車機能のあり方については、基本計画において具体的に検討するものとします。

⑤町全体との関係性（デザインミュージアム）

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート① （中心市街地）	分散している施設のインフォメーションを行って、より使いやすいようにしてはどうか	中長期的に検討	本基本構想は「町全体の構造と方向性を示すもの」として位置づけ、各機能の詳細や運営形態については、基本計画以降で検討するものとします。
ワークシート① （中心市街地）	各種イベントの横の連携。 開催日が重複、内容が良く分からない。大きいものから小さいものまで	中長期的に検討	本基本構想は、「町全体の構造と方向性を示すもの」として位置づけます。広報のあり方を含め、各機能の詳細や運営形態については、ご意見を踏まえ、基本計画段階において検討します。
ワークシート① （中心市街地）	公共施設：ストーリー大事。保存場所としてのつながり	構想案の趣旨と一致	ご指摘のとおり、「町全体がデザインミュージアム」という考え方に基づき、他の既存公共施設との連携や相互補完による相乗効果の創出を意図するものとします。特に機能1①については、旧東川駅跡ですべてを収蔵・展示するのではなく、町内他施設と運営上の連携を行うことを想定します。
ワークシート① （中心市街地）	整理をして発信する。リソース（資源）	構想案の趣旨と一致	町の資源や、既存施設の存在、旧東川駅跡との役割分担は、基本構想において整理するとともに、今後も継続的に検討します。
ワークシート① （中心市街地）	文化・学習：区分けあまい	構想案を修正	文化振興と学習双方の役割を持つ施設が多いことから、一体的な整理は維持するものの、「文化と学びの拠点」に表現を改めます。
ワークシート① （中心市街地）	緑が難しい。役割、内側より、インター・アウター。ごちゃっとしている。カラーがあった方がよい	構想案を修正	文化振興と学習双方の役割を持つ施設が多いことから、一体的な整理は維持するものの、「文化と学びの拠点」に表現を改めます。
ワークシート① （広域）	デザインミュージアムとの関連性先に取り決める	中長期的に検討	本基本構想は、「町全体の構造と方向性を示すもの」とし、機能の詳細等は基本計画において検討しますが、既存施設で担われている機能との重複を避け、旧東川駅跡は新たな価値創出に寄与する機能を中心に構成する考え方を基本とします。
ワークシート① （広域）	織田コレクションを商店街や公共施設にも展示して、多くの人に見せていく	中長期的に検討	本基本構想は「町全体の構造と方向性を示すもの」として位置づけ、各機能の詳細は基本計画以降で検討するものとします。ただし、ご指摘のとおり、本事業では町全体を一つのミュージアムと捉え、旧東川駅跡を町全体の回遊の拠点としつつ、地域資源や既存施設全体を価値創出の基盤として位置づけます。

⑤町全体との関係性（デザインミュージアム）

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート① (広域)	織田コレクション分散して見せていく	中長期的に検討	町全体を学びや体験の場と位置付ける「町全体がデザインミュージアム」という考え方においては、例えば旧東川駅跡以外でも織田コレクションの展示を継続することで、町内全体の回遊を促すことも考えられます。また、現在も東京等で開催される展示会に織田コレクションの貸出を行っています。こうした取組を継続します。
ワークシート① (広域)	<CRAFTPIA> 地域と産業を結びつける場の機能も もたせてはどうか	他施策において検討	CRAFTPIAの今後の運営において検討いたします。
ワークシート① (その他)	これから：もっと議論 施設毎の差別 化	構想案の趣旨と一致	旧東川駅跡と各施設の役割分担は、基本構想においても整理するとともに、今後も継続して検討を行うこととします。
ワークシート① (その他)	デザインミュージアム系：楽しさ 表通 り 裏通り	中長期的に検討	ご指摘のとおり、本事業では各施設や資源をつなぐ回遊動線を構築し、テーマ性やストーリー性を持った体験の連続性を生み出すこと、主動線に加え、「裏参道」のような新たな回遊軸の形成により、多様な滞在と発見の機会を創出することを目指します。また、その中で特に旧東川駅跡は、旧東川駅跡は回遊の起点としての役割を担うことを想定し、基本計画以降において詳細な検討を行います。
ワークシート① (その他)	デザインミュージアム系：路地裏 楽 しみ方 狭い所	中長期的に検討	ご指摘のとおり、本事業では各施設や資源をつなぐ回遊動線を構築し、テーマ性やストーリー性を持った体験の連続性を生み出すこと、主動線に加え、「裏参道」のような新たな回遊軸の形成により、多様な滞在と発見の機会を創出することを目指します。また、その中で特に旧東川駅跡は、旧東川駅跡は回遊の起点としての役割を担うことを想定し、基本計画以降において詳細な検討を行います。
ワークシート① (その他)	デザインミュージアム系：小さいけど 歩き方 魅力あるね	中長期的に検討	ご指摘のとおり、本事業では各施設や資源をつなぐ回遊動線を構築し、テーマ性やストーリー性を持った体験の連続性を生み出すこと、主動線に加え、「裏参道」のような新たな回遊軸の形成により、多様な滞在と発見の機会を創出することを目指します。また、その中で特に旧東川駅跡は、旧東川駅跡は回遊の起点としての役割を担うことを想定し、基本計画以降において詳細な検討を行います。

⑤町全体との関係性（デザインミュージアム）

第5回懇談会でのご意見

議題	懇談会におけるご意見	位置づけ	今後の検討における方針
ワークシート② 基本理念（案）	「歩み」って何だろう？	構想案の趣旨と一致	「歩み」は歴史や背景、由来を意味する表現を想定しております。特に「1. 文化に資する機能」等を通じ、地域の生活・産業・文化の背景（由来）を学び、それを新たな価値へとつなげていくことを目指します。
ワークシート② 基本理念（案）	かけがえのないもの唯一無二	構想案の趣旨と一致	ご指摘のとおり東川町には独自の豊かな魅力がすでにあることを前提としながら、未来に向けてさらに新しい価値を探索していく観点で、「東川の魅力に触れ、学び、人となりがながら、東川らしい豊かな暮らしを育む拠点」と表現しています。基本理念については現在の表現を維持しつつ、そのさらに前段において、東川町にすでにある魅力についても記載するものとします。
ワークシート② 導入機能	施設ができてから様々なハレーションが起きているのを期待	構想案の趣旨と一致	ご指摘のとおり、本事業では「町全体がデザインミュージアム」の考え方にに基づき、旧東川駅跡と町内に点在する既存施設や地域資源を結びつけ、来訪者がそれらを回遊しながら体験することにより、単一施設としての完結ではなく、町全体の価値を高めることを図るものとします。また、町内外の人々が主体となって活動し、新たな価値を生み出す「場」を形成することを重視します。
ワークシート② 導入機能	写真文化首都ひがしかわ⇒町全体がデザインミュージアム	構想案の趣旨と一致	ご指摘のとおり、本事業は「町全体がデザインミュージアム」という考え方のもと、写真文化、大雪山文化、家具クラフト文化といった東川町の様々な文化全体を地域資源と捉えるものです。
ワークシート③ 機能配置の考え方	東川には旭岳が有る。この自然と山をつなげるといいのでは	構想案の趣旨と一致	旭岳をはじめ、自然資源を含め、「町全体がデザインミュージアム」とみなします。
ワークシート③ 機能配置の考え方	（町のどこかに）インフォメーション機能：ここに聞けばわかること	中長期的に検討	各機能の詳細については基本計画以降で検討するものとしますが、旧東川駅跡は、町全体の回遊の起点として、道の駅などの既存施設への接続とともに、来訪者と町民が交わる場としての役割を担う拠点と位置付けます。

旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定等懇談会（第 6 回）

ワークショップ資料

令和 8 年 5 月
東川町

1. 実施の趣旨・目的

- 第5回懇談会までの議論を通じ、旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想骨子案（中間報告）の取りまとめおよび検証を行いました。さらに、第5回終了後、本日までに町民説明会、有識者への意見聴取を実施しています。特に第5回懇談会でいただいた意見については、【資料3】にて整理を行っています。
- 上記を通じて寄せられた意見を踏まえ、骨子案を見直し、基本構想（案）【資料1】として取りまとめています。
- 第6回懇談会では、基本構想（案）【資料1】の内容の検証を行います。

今回のワークの趣旨・目的

進行方法

第1～2回

基礎調査で示された内容の検証



第3回

本プロジェクトの基本的な考え方
（基本理念・導入機能等）の検討



第4回

上記の確認とゾーニング・動線の検討



第5回

基本構想骨子案（中間報告）の検証



第6回

基本構想（案）【資料1】の検証
※有識者・住民説明会意見の共有

- 懇談会委員の皆様には、4班に分かれて着席いただきます。各班には役場職員も参加し、進行補助を行います。
- まずは個人でワークシートへの記入を実施頂いた後、各班で意見交換を実施頂き、最後に全体発表を行います。
- 事前のワークは設けておりませんが、当日までの準備として、各資料についてはご一読いただけますと幸いです。

2. グループワークの準備

- グループメンバー間で簡単な挨拶を行ってください。次に、グループメンバー間の役割分担と、おおまかなスケジュール（細かな時間配分や1人当たりの発言時間の目安など）を決めてください。

ワークショップのルール

- 1 参加** 積極的・主体的に参加ください
- 2 尊重** お互いを尊重し、意見を傾聴ください。
- 3 守秘** 個人的な情報は外に持ち出さないでください。
- 4 時間** 各ワークの時間配分の目安を守ってください。

挨拶・役割決めの実施概要

手順	実施事項
	- グループワークの開始が告げられたら、グループメンバー間で簡単な挨拶を行ってください。 - グループメンバー間の役割分担と、おおまかなスケジュール（細かな時間配分や1人当たりの発言時間の目安など）を決めてください。 - 役割はおおよそ以下を想定しますが、必要があれば他の係を設けても構いません。 進行役 各グループの意見交換の司会進行を行います。 時間係 スケジュール通りに議事が進行するよう、時計を見ながら時間管理を行います。（議事が時間を超過しそうになった場合は、「残り●分です」と周知するなど） 記録係 発表等に備え、議事をメモします。各グループに配布された模造紙を活用ください。 発表係 各グループの意見を整理し、発表を行います。

3. 本日のタイムスケジュール

- ・ 合計約 3 時間で、事務局による資料説明・質疑ののち、その内容を踏まえて基本構想（案）について意見交換いただくことを想定いたします。
- ・ 時間配分は目安です。実際の意見交換の状況を踏まえ、事務局から適宜次のワークに移るタイミングをご案内します。

本日のタイムスケジュール（予定）

13 : 30 14 : 30	全体説明 資料説明 (60分)	● あらかじめグループに分かれて着席 ● 町長挨拶、事務局説明および質疑
休憩 10分		
14 : 40 16 : 40	グループワーク (120分)	● 有識者、住民説明会意見の共有 ● グループワークの趣旨や進め方を説明 ● 全体説明を踏まえ、個人ワークとして、各自の意見をワークシートに記載 ワークシートに記載した内容はポストイットに転記 ● 個人ワーク終了後、グループワークに移行し、各班で意見交換を行ったうえ、ホワイトボード上で意見の取りまとめを実施 ● グループワークの結果を発表
16 : 40 17 : 00	事務連絡 (20分)	● 今後の検討スケジュール等を事務局より説明

4. グループワーク班

座席表

1班

中央 自治振興会 平川	第一自治振興会 三輪
西部自治振興会 大橋	キトウシ自治振興会 菅沼
	東川町 社会福祉協議会 柏原

3班

一般社団法人 ひがしかわ観光協会 竹部	旭川電気軌道 株式会社 蟹谷
一般社団法人 ひがしかわ観光協会 佐藤	東川町 建設業協会 藤田
一般社団法人 ひがしかわ観光協会 竹内	

2班

東川町商工会 高島	東川町農業 協同組合 樽井
東川町商工会 平田	東川町農業 協同組合 米田
東川町商工会 木村	東川町商工会 能沢

4班

北海道立 東川高等学校 森	東川国際文化 福祉専門学校 黒田
東川町教育委員 荒井	東川町 PTA連合会 正垣
東川町校長会 浅野	東川町民生委員児童 委員協議会 森田

5-1. 個人ワーク

- 全体説明や各資料を踏まえ、まずは個人で基本構想（案）の内容を確認いただきます。
- 確認結果はワークシートに書き出したのち、ポストイットに転記ください。

グループワークの進め方

（１）個人ワーク 時間：50分～

1. 有識者、住民説明会意見について、【資料５】、【資料６】により共有いたします。
2. 全体説明や各資料の内容を踏まえ、基本構想（案）の内容について、前回までの内容を適切に踏まえているか等を確認ください。
 - ① 基本理念やめざす方向性・構造について
 - ② ①を踏まえた駅跡の役割や導入機能について
 - ③ 空間の考え方について
 - ④ 基本構想案に対する総評
3. 確認結果を各自のワークシートに書き出してください。
4. 書き終わりましたら、グループ内意見共有に向けた準備として、ワークシート記載の意見をポストイットに転記してください。

5-2. グループワーク

- 各自の個人ワーク結果＝ポストイットをホワイトボード上に貼り、意見の整理を行ってください。
- 最後に、各班の検討結果を、1班当たり5分程度（質疑を含む）で全体に発表してください。

グループワークの進め方

（２）意見交換 時間：50分～

1. 一人ずつホワイトボードに貼ってあるシートに、個人ワークの結果＝ポストイットを貼りながら、意見をグループ全体に共有してください。
2. 全員の発表終了後、記録係と発表係が連携して、ホワイトボードに示された内容を整理し、発表に向けた取りまとめを行ってください。

（３）全体発表 時間：20分～

1. 発表係より、全体に向けて意見交換結果の共有・発表を行ってください。
発表時間は、質疑も含めて5分程度を想定します。
2. 発表以外の班の方は、発表する班のホワイトボードを取り囲むようにしてください。

旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定

住民説明会の取りまとめ

令和8年5月
東川町

開催概要

- 令和8年4月19日に、「旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定状況住民説明会」を開催し、41名の方に参加いただきました。
- 説明会においては、町長より、「旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想」策定の進捗状況を説明したうえで、町民と行政がお互いの立場を尊重し、共に知恵を出し合うことにより、町民が主役のまちづくりを進めていくための貴重な機会として、町民のみなさまとの対話を行いました。

開催概要

開催日時	4/19（日）18:00～20:00
開催場所	東川町農村環境改善センター
参加者数	41名

適疎で豊かな暮らしの実現に向けて

旧東川駅跡再開発プロジェクト 住民説明会



2026
4.19日 18:00-20:00

概要 旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定に向け、懇談会を開催し検討を進めていますが、現在の進捗状況について説明会を開催いたします。
多くのみなさんご参加をお待ちしております。

会場 東川町農村環境改善センター「多目的ホール」
〒071-1423
東川町東町1丁目15番3号

申込 事前申込は不要となります。
※皆様のご参加お待ちしております。

お問い合わせ：東川町役場 適疎推進課 適疎推進室 Tel. 0166-82-2111（内線：290,293）

住民説明会における主なご意見

- 施設の配置や織田コレクションの展示形態についての意見が寄せられたほか、「ウォーカブル」をキーワードとした回遊性向上、事業費に対する意見が寄せられました。
- 事業の進め方に関し、方針の決定過程の透明性、検討過程における情報の公表を求める意見もありました。

住民説明会での主な意見

No.		主なご意見
1	施設の機能・配置	• 地域交流エリアについて、居場所づくりのターゲットが誰なのかが気になる。 • 屋外広場がどのように整備されるのか気にかかる。自由に出入りできる空間になるだろうが、周辺は夜間静かな場所である。 • 織田コレクションの収蔵展示があればよい。
2	交通・道路/駐車・回遊性	• 敷地中央の道路について、通学にも使われている場所であるため、歩行者の通行は何としても確保していただきたい。 • ウォーカブルなまちづくりを志向するのであれば、道路の使い方や計画を変えていく必要もあるのではないかな。 • ウォーカブルの動線をどう作っていくのかも気にかかる。他公共施設での織田コレクションの展示をリンクさせることも可能であろう。共通チケットをつくる等してもよい。
3	施設の運営・収益	• 収益を見込んでいる場所は具体的にどのような部分か。
4	事業費・財政負担	• 事業費について、試算結果45億円に対して目標値36億円が低すぎるように思われる。何か抜本的な機能の見直し等がなければ難しいのではないかな。 • 新築と既存改修それぞれについて言及があった。実際には倉庫によって改修単価も異なってくるという理解でよいかな。
5	住民合意・事業の進め方	• 今までの会合の議事録等は作成しているのか。閲覧できるか。町民もなるべく役場と同じ情報にアクセスして、本事業について考えていく必要があるのではないかな。こういった経緯で事業方針が決定されるのが重要である。

1. 施設の機能・配置について

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
プラン提案の 閲覧可否	機能配置について、概ね固まっているのは織田コレクションだろう。田根氏と隈氏からそれぞれ提案が出たという話だが、町民が閲覧できる状態になっているか。	プランの内容については、現段階では開示の予定はない。ただ、考え方の部分は基本構想に反映されている。結論から言えば、御想像通りの内容である。田根氏からはデザインミュージアム、KKAA事務所からは地域交流エリアについて提案があった。	質問
地域交流エリア における ターゲット設定	10ページの地域交流エリアについて、居場所づくりのターゲットが誰なのかが気になる。 - そらいうでは、1階は幼児やその親達の交流の場となっており、せんとぴゅあでは学生が集っているが、駅跡ではどこにフォーカスするか。	10ページの居場所について、東川町は各公共施設のうち、居場所を持つものが点在しているのが一つの特徴である。せんとぴゅあ、改善センター、道の駅、役場1階、文化ギャラリーなど、様々な施設がある。使う方々の目的に応じて使いやすい施設にしたい。駅跡も同様に、使う方が決めていく部分もある。バスセンターも単に待合所ではなく、居場所と位置付けたい。	質問
多目的 ホールへの 入場動線	多目的ホールの西側を整備しているが、一つ外れたところから出入りしなければならない。収容人数に対して、動線が西3号道路だと難しい。屋外広場から出入りできるようにしてはどうか。	多目的ホールにアクセスする動線もご指摘のとおりである。仮に多目的ホールが実現するのであれば、デザインミュージアムやパブリックスペースと連動し、西側から出入りする動線が必要である。	意見
屋外広場の 整備の方向性	- 屋外広場がどのように整備されるのか気にかかる。自由に出入りできる空間になるだろうが、周辺は夜間静かな場所である。 - 例えば羽衣公園には日没後も人がいることがあるが、近隣住民からすると、夜間に人が滞留することは気にかかる。	屋外広場は全く白紙である。屋外イベントできる場所としたいが、詳細はこれからである。周囲に住宅がある中で、夜中まで人が滞留するのは当然望ましくない。それらも踏まえて、整備を検討したい。	意見
諸室配置の 考え方	10ページの配置図について、展示室、ロビー、オフィス、パブリックスペースの一部が既存改修で、その他が新築ということになるか。	多目的ホールは既存改修を想定する。	質問

1. 施設の機能・配置について

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
織田コレクションの収蔵展示の可能性	- 実際に織田コレクションの収蔵、展示ができた場合、運営に関する検討の進捗はあったか。個人的な要望として、収蔵展示があればよい。 - スイスのヴィトラデザインミュージアムでは、25ユーロ程度で入館でき、収益が出ていると聞く。織田コレクションはその比でない数がある。他に類を見ない数であるため、期間限定であっても収蔵庫を見て回れるツアーがあれば、意義があるのではないか。収益面での貢献も期待できる。企画展はせんとびゅあ等にもっていったもよいのではないか。	- 田根氏のプランはストレージと収蔵展示を両立させるものが提案されたため、構想にも反映されている。展示に他の施設を活用するという要素も含まれていた。展示は抑制した面積において企画展示ができるように考えている。 - 地域交流エリアについては、まさしくパブリックスペースとして必要最低限のものを作っていく。人との交流と学びに資する空間に加え、わずかながらショップがある。多目的ホールは既存施設がほぼ埋まっている中で、もう一つ必要であると考えている。 - 運営については決めてはならず、全体について検討している。まちづくり会社というアイデアも出ているが、どのような人たちがそこに参加するのが重要である。外から落下傘的に来た人が取り組むのではなく、地元の人に関わる仕組みを作るのが一つのポイントである。 - 町の直営と、まちづくり会社会的な主体の運営が並行する可能性もある。どこかに運営を任せるのではなく、いかに自分たちで事業に取り組んでいくかが重要である。	意見

2. 交通・道路について

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
敷地中央の道路の交通制限要否	- 敷地の中央にある道路の交通制限要否について、今後検討するのかなど方針を説明していただきたい。 - 自身は旧東川駅跡の近隣に居住し、当該箇所を生活道路として用いているため、交通制限に反対するものではないが、方針を確認したい。通学にも使われている場所であるため、歩行者の通行は何としても確保していただきたい。町内会でも説明いただいているだろうが、再度ご教示願いたい。	- 町内会での説明においては、敷地中央道路について、通行を維持してほしい、通行止めにしてほしいという双方の意見があった。町としては、方向性を確定したものではない。 - 近隣住民の暮らしを守る観点で最善の方法を模索している。北4条道路がどのような使い方になるのか、そのためにどのような整備をするのか、多様な考え方がある。現時点と、整備後の交通量を想定したうえで、具体的に地元の皆さまにプランを示しながら整理したい。	質問
回遊性向上に向けた道路整備状況	- 周遊性を高めるうえで、ホテル用地とのアクセス、利便性等も考慮されているだろうが、8番地と9番地の間に道路はあるという認識になるか。現状、舗装されている道路はあるか。 - 以前に近隣住民の方がそこに道路があるのかを町に聞いたそうで、人が通行しないので道路にしていないと聞いた。	- 住宅の並びの中で畑になっている部分のことと理解した。ホテル計画は把握しているが、具体的な着工時期は把握していない。ホテル事業者側の考えとしては、なるべくもとあった通行を阻害しないよう配慮したいと聞いている。8番地と9番地の間の部分は民間の方が所有する宅地と聞いている。当該の箇所については何も計画はない。 3号道路とそらいろの間の通路は現在蓋をしているが、用水路があるために地番が分かれている。その部分にも活用計画はない。	質問

2. 交通・道路について

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
回遊性向上に向けた道路整備状況	ウォークアブルなまちづくりを志向するのであれば、道路の使い方や計画を変えていく必要もあるのではないかと。既存計画の検討等あればご教示願いたい。	- 交通計画、道路計画については、この周辺に限らず、市街地内について、既存道路を大きくは変えないまでも、今後のあり方を整理しなければならない。 - 道草館・モンベルの改修、バスセンター整備等、様々な事業を検討している。それらが実現すれば、人や車の行き来の仕方も変わってくる。まず道草館周辺をどうするか考えている。道草館とモンベルの間を通行止めにして代替策を考える等もありうる。それに加えて旧東川駅跡との接続性を考えていかなければならない。道道や町道の人の流れもどうなっているのか、役場、フォトストリートと東側をどうつなぐか、今後どうするか考えなくてはならない。 - 北4条道路は特に除雪、レンガ倉庫屋根の落雪等により危険が増す。それらを総合的に、皆さまに確認しながらあるべき姿を考えてまいりたい。1～2年かかる議論だと思っている。	質問
回遊性向上に向けた道路整備状況	- 東町2丁目説明会でも同様に、北4条道路に面する倉庫が道路に越境しているという話があったと記憶している。旧東川駅跡の敷地を農協から町が取得したという話がある中で、法的な問題はないか。 - 交通規制等検討される中で、越境の状況を踏まえてどのように活用していくか。実際近隣で事故があったという話があった。今後同様に事故があった場合、町有地になれば、町に民法上の瑕疵責任が生じるということもありうる。現状では問題ないという解釈でよいのか。 - 先日の東町2丁目での説明においても、実際近隣で事故があったという話があった。今後同様に事故があった場合、町有地になれば、町に民法上の瑕疵責任が生じるということもありうる。そういったところも含め、現状では問題ないという解釈でよいのか。	- 倉庫群は農協から町が取得した。道路敷地に倉庫群が越境してしまっている点について、歴史的経緯の中で、道路敷地と民間の土地が重複している部分は、町内に点在している。どこかの時点で整理していきたいと考えている。 - 技術的には倉庫を移動させることも可能であるが、財政的制約もある。裏手の道路の安全性をどう確保するか。越境しているということより、北4条道路の幅員が十分かどうかを懸念している。 - 瑕疵を問われうるかはケースバイケースであると理解している。交通規制については、町の責任としての町道のあり方が求められる。道公安委員会とも確認しながら対処していく。今後どのような対応が考えられるか、案を作ってまいりたい。	質問

3. 駐車場・回遊性について

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
駐車場の計画	・ 駐車場についてどのように考えているのか。	・ 駐車場や道路の整備において、交通量調査や来館予測、生活者の動線等をシミュレーションしながら計画として整理したい。中心市街地に点在している公共施設で数が足りるのか、追加整備するのか等、調査を行いながら配置計画をまとめていく予定である。 ・ 最初は駐車場がたくさん必要と意見があったが、同様に分散させていくべきでは、回遊の仕組みをどう作っていくのかという意見が出てきた。駐車場を増やしてはいいが、そんなに多くの面積は取れない。	質問
駐車場の計画	・ 自身は東町2丁目に居住している。駐車場の話の中で、6ページに駐車場造成への言及がある。7番の旧東川駅跡の下辺りは留学生等も頻繁に通行する場所で、東川の地理がよくわからない人の車が入ってくるのは危ないのではないか。旧東川駅跡に専用駐車場を造成しなくても、周辺駐車場の周知によってある程度賄えるのではないか。	・ 駐車場については、6ページ鉄塔辺りの茶色の四角部分でそう広くはないが、旧東川駅跡の用地内に少し駐車場を設ける必要がある。ご指摘通り、前の通りや人通りのある場所の安全対策の棲み分けを考えなければならない。	意見
駐車場の計画	・ 地域交流スペースに新築と既存改修が混在している。倒壊した建物が1つあった辺りはどうなっていくのか。	・ 倒壊した建物含めて、活用するとすれば駐車場になるだろう。周辺をどうするかは、全体のプランの中で決まっていく。	質問
ウォーカブルな動線の形成	・ ウォーカブルの動線をどう作っていくのかも気にかかる。他公共施設での織田コレクションの展示をリンクさせることも可能であろう。共通チケットをつくる等してもよい。	・ 市街地の駐車場を活用し、ウォーカブルなまちとして考えていくことが重要である。 ・ ゆめ公園天然芝サッカー場の西側の北2線付けに、350台程度駐車できる駐車場を整備することを想定している。距離的には遠いが、そうしたところも周知したい。それと合わせ、展示を連動させることで集客と収益につながっていくことは、その通りであると感じる。	意見

4. 施設の運営・収益について

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
収益の見込み	11ページの一番下について、収入を見込んでいないと記載があるが、何か収入を見込める要素はあるのか。かなり大きな歳出だと思うが、すべて持ち出しになるのか。	- 表現がよくなかった。あくまでも参考値であり、一つの目安として記載している。運営費をいかに圧縮していくのが重要である。収益を上げる機能をどのように持つのかということは重要であると考えている。 - 織田コレクションでどのように集客できるか、限界があるのは理解している一方、価値があることは分かっている。織田コレクションをこの場所に留めていくのではなく、外部貸出により収益を上げることも考えていかなければならない。注目されるコレクションであることは認識したうえで、収益につなげていくのか考えていく必要がある。	質問
収益の見込み	収益を見込んでいる場所は具体的にどのような部分か。	- 左側の公共施設エリアについては、展示などにより入館料収入が見込めると考えている。収蔵エリアも、なんらかの方法で空間を貸し出すことができれば、貸館料、使用料等が見込めるのではないかと考えている。 - 右側の地域交流エリアについては、パブリックスペースの会議室等の利用料、多目的ホールの利用料等は見込みうる。駐車場について、現段階では町内公共施設において利用料金を徴収していないが、屋外広場でのイベントや催事利用においては料金徴収を想定している。 - 懇談会第1～2回は収益性をどのように確保するかが議題となっていた。ただ、徐々に整備目的を検討する中で、収益性のみを追求するのはどうなのかという意見も出てきた。極端な集客要素を入れるよりは、訪れた人を町全体にどのように裨益させていくのが重要なテーマである。	質問

5. 事業費・財政負担について

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
事業費目標の妥当性	- 事業費について、試算結果45億円に対して目標値36億円が低すぎるように思われる。何か抜本的な機能の見直し等がなければ難しいのではないかな。 - いずれにせよ事業費が巨額といわざるを得ないため、相当の検討が必要ではないか。夕張の二の舞になることは避けたい。	- 既存倉庫の改築単価が現状約160万円/㎡と試算されている。新築単価78万円/㎡と同等で施工できれば削減が可能と考えている。そうしたところを見込みながら、既存倉庫の改築についてどのような手法で改築していくのか、今後も調査検討を行ってまいりたい。 - 事業費は36億円を目標値と考えている。あくまでも現実的イメージを把握するための参考値である。 - 初期投資額の2分の1は国庫補助を用いたい。残り2分の1は有利な起債を充当したい。町の実質負担は10億円程度と想定しているが、それについてはふるさと納税を積み立てている基金を充てたい。 - 実際に令和7年度決算額で47億円の寄付額がある。実際に使えるのは、その2分の1の23億円程度である。全部を本事業に充てるということではないが、積み立てをしながら計画をしている。現在のような寄付額が持続できればよい。実質負担額については準備ができています。	意見
レンガ倉庫の改修・新築単価の比較	- レンガ倉庫を改修する単価と新築する単価に違いがあると理解した。事業費だけ考えれば新築した方が安価であるということか。 - 実際にレンガ倉庫の耐震補強を行うのには費用が掛かるのではないかな。	- 既存の建物の使い方により改修費用は増減するということを意図した。今後基本計画の中で、どのようなソフト面の運営をするか、どのように改修を行うかを検討したい。レンガ倉庫と石造り倉庫については歴史的価値を有すると位置づけ、一部は残したいと考えている。それを前提としながら、新築に単価を近づけていくことが重要である。あくまでも既存倉庫4棟の活用は目標としたい。 - 試算においては、建物の外観を維持することを重視し、最も費用が掛かる工法を想定して試算している。まだ圧縮の余地はあると考える。 - 倉庫の改修費用は、建物によって濃淡がありうる。構造調査結果を施工会社に提示しながら、全体改築の費用を算出し、面積で割り返したのが現在の単価である。	質問
レンガ倉庫の改修・新築単価の比較	新築と既存改修それぞれについて言及があった。実際には倉庫によって改修単価も異なってくるという理解でよいかな。	実際には建物によって濃淡がありうる。構造調査結果を施工会社に提示しながら、全体改築の費用を算出し、面積で割り返したのが現在の単価である。	質問

6. 住民合意・事業の進め方について

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
町民合意形成の時期・方法	3回ほどこうした説明会に参加している。町民参加による町民主体のまちづくりを進めていくという基本コンセプトがある中で、限られた人数に対する説明の中で、本当に町民が望んでいると言えるのか。 - プロジェクト立ち上げに際して、町民投票のようなものがあつたのか。7月ごろをめどに基本構想をまとめたいとあつたが、どの段階で町民の相違を聞く予定があるか。	- 旧東川駅跡再開発の話が出てきたのは3年前である。それまでは前町長がデザインミュージアム構想という位置づけで話をしていた。自身が町長に就任してから、旧東川駅跡の活用とデザインミュージアムを両輪で考えていくべきと整理した。それに対しては、2～3年継続して説明をしてきたというほかはない。 - 住民の総意を取る方法はいくつかあるだろう。丁寧に回数を設け、このプロジェクトに限らず、広く意見を伺う機会を設けてきた。タウンミーティングでも説明してきたうえで、各地域での意見交換も行ってきた。各地域での取組を補足する意味合いで、こうした全町を対象とする説明会についても実施している。SNS、ホームページ、広報誌等を通じて幅広く情報発信している。丁寧な取組を継続するほかないと思っている。 - 今後については、基本構想を策定したから終わりというものではない。方向性を位置づけるものであって、詳細を決定するものではない。皆さまの意見を踏まえて構想は策定するが、その後基本計画を検討していく。また、それについて説明を行う。すでに決まった結論があるというものではない。	質問
町民の本事業に関する情報へのアクセス	- 今までの会合の議事録等は作成しているのか。閲覧できるか。町民もなるべく役場と同じ情報にアクセスして、本事業について考えていく必要があるのではないか。 - 椅子の展示に20億円使うのであれば、それなりに慎重さが必要であると考えている。どういった経緯で事業方針が決定されるのが重要である。	- 本事業についてはこれまで3年間にわたって議論してきている。本日は基本構想に対する意見聴取であるため、細かい意見が出るのは当たり前であると解釈している。例えば、タウンミーティングの経過については町広報に詳細に記載している。懇談会における議論についても結論付けることを意図するというより、皆さまの意見を踏まえて整理しており、それが今の資料につながっていると理解していただきたい。 - これまでの検討経過については、町ホームページでの公表は実施している。まずはそれをご覧いただきたい。今後については、第1～7回までの懇談会の概要、タウンミーティングで得られた意見については公表したい。どのような検討経過を重ねてきたかは公表すべき情報であると捉えている。 - デザインミュージアム構想というものがやはり必要であろうと理解いただいている前提で話を進めている。単に椅子に20億円投資しようというわけではない。椅子の価値、コレクションをどう活かすかについて理解を深めてきた。	意見

7. 事業の前提について

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
事業の在り方の再検討の可能性	- 前町長からの流れがあった事業だと思うが、やめる方向があってもよいのではないか。小学校が移転した際、道の駅は元の小学校の位置に移転すべきだと考えていた。商店街等への影響を懸念してその意見はつぐんだが、旧東川駅跡にたまたま建物があるため使い方に頭を悩ませているところではないか。 - 冬季になぜ町外から来訪者がいるのかを考えると、おそらくモンベルや道の駅が目的ではないか。それに勝るものを検討していかなければならないが、それだけの魅力があるものを作るのは難しいのではないか。織田コレクションはあるが、そう何回も見るとは思えないため、思い切って止めるという選択肢もある。	- 前町長からの流れを受けて、不本意ながら検討しているという趣旨のプロジェクトではない。多角的な観点から必要な施設であると感じている。駅跡については活用すべきという意見を多く耳にする。織田コレクションについても公有化している。どのように活用していくかは重要である。 - 止めるという選択肢はなく、ご指摘の課題については考慮しなければならない。例えば道の駅との機能の重複をどうするかなどについても、相乗的に効果を生んでいくような整備をしていかなければならない。この方向で進めていきたい。 - 現在土日は町内どここの飲食店も混雑していて、昼食を食べる場所がないほどである。商店街が水曜・木曜は定休日の店が多いにもかかわらず、冬を含め、なぜ人が東川に来るようになったのか。東川町という町に魅力があると感じている結果ではないか。町内の飲食店は10年前には40店舗もなかったと記憶しているが、現在は90店舗近くもできており、いつの間にかカフェ巡りのまち等といわれるようになった。また、イベントが多いという話は聞く。旭川周辺を中心に、東川町で何が行われているのか、関心を持っている人が多いのではないか。東川町が変わってきたことを踏まえながら、持続可能なまちづくりをどのように進めていくのかを考えていかなければならない。	意見

旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定等懇談会（第 6 回）

有識者からの意見資料

令和 8 年 5 月
東川町

1. 有識者意見聴取の実施概要

有識者の皆様より、基本構想（案）について、以下に示すとおり方式によりご意見をいただきました。

実施時期	令和8年5月（回答期限5月15日）
実施形式	書面（Googleフォームおよび手書き）による意見聴取
対象分野	①家具・デザイン分野 ②人づくり・町づくり分野

有識者
(敬称略)

織田 憲嗣	椅子研究家 東海大学名誉教授	中村 駿介	東川町人づくりアドバイザー 壱岐市政策顧問
藤田 哲也	旭川家具工業協同組合理事長 北海道家具工業協同組合連合会代表理事 一般社団法人日本家具産業振興会理事 織田コレクション協力会会長	水野 悠希	東川町観光大使 法政大学大学院政策創造研究科（修士号） アナウンサー
杉本 啓維	織田コレクション協力会事務局 旭川家具工業協同組合専務理事	小篠 隆生	一般社団法人新渡戸園有リビングラボ理事長 前北海道大学大学院工学研究院准教授 北海道大学大学院工学研究院非常勤講師 東京電機大学研究員・非常勤講師
下田 結花	株式会社2M house 代表取締役 モダンリビング・プロジェクトディレクター		

2. 有識者意見聴取における主なご意見

・有識者からの意見聴取により、共通する事項について以下のとおり整理しました。

有識者意見聴取における主なご意見

No.	項目	主なご意見
①	コレクションの位置づけと活用方針	・ コレクションは「見る文化財」から「体験し学ぶ文化資源」として再定義すべき（藤田） ・ 家具は全体の1/5。照明・食器・玩具等の生活デザイン4/5を総体として展示・体験できる仕組みが重要（下田・織田・藤田） ・ 公有化された公共的な文化資源として国内外に開かれるべき。保存環境・調査研究機能・展示案内の質向上が重要（杉本）
②	エリア連携・外部空間	・ 外部空間を「第三のエリア」として積極的に位置づけ、回遊・体験・交流の場として設計することを提案（下田） ・ 展示と体験の融合した構成配置とミュージアムカフェ・ショップの一体化を求める（下田） ・ 回遊性や滞在性、日常利用の動線を通じて自然につながる空間・運営設計が重要（藤田）
③	産業連携・広域展開	・ 施設完成を待たず、木工業者が学ぶ機会を今すぐ先行して拡充すべき（下田） ・ 行政区域を超えた旭川家具産地全体との広域連携（旭川・東神楽・作り手・教育機関・産業団体）が必要（杉本・織田）
④	人材育成・文化人材	・ 「誰を・何のために育てるか」が不明確。小中・高・専門学校との連携が欠かせない（水野・中村・小篠） ・ 文化的知識と実践能力を持ちまちづくりに貢献できる「文化人材」育成という強い信念が必要（小篠） ・ 収蔵管理・調査研究・展示企画・教育普及を担う専門的な運営人材の確保が急務（杉本・織田）
⑤	施設規模・機能の優先順位	・ 収蔵庫だけでせんとぴゅあⅡ規模は過大。第1期として面積を絞った段階整備が現実的（小篠） ・ 4つの機能が併存する施設がイメージしにくい。「このプロジェクトで一番求めるものはこれだ」という方針の明示が必要（小篠・水野） ・ 倉庫群10棟中4棟のみ活用は「重要な建物群」評価と矛盾。耐震積算の再実施が必要（小篠）
⑥	持続可能な運営・財政	・ 30～50年の長期視点で、他施設含む20年以上の財政見通しの策定が必要（水野） ・ 公民連携の目的と解くべき課題を明記すべき。紫波・上士幌との比較で何の課題を解くのか（小篠） ・ 透明性確保・情報公開と収益を追求するメンタリティの醸成が成功要因（中村）

2-1. 有識者意見聴取結果 | 織田委員

- デザインは暮らしの中に根付くものであることを踏まえ、「生活デザインミュージアム」の提唱・コレクションの全体像・産業振興・コレクションの取得についてご意見をいただきました。

主なご意見

ご意見（①デザイン文化論とコレクションの全体像）

- 町全体を含む場合、生活・暮らしが伴うことになり、「生活デザインミュージアム」という考え方の方が広くて適切ではないか
- どうしても東川町の家具産業との関わりから「家具」に偏りが感じられる。コレクションの中では家具は5分の1に過ぎず、照明器具・テーブルウェア・木の玩具・カトラリー等の生活デザインが全体の多くを占めており、それらこそが地域の生活文化を高めるために重要なアイテム

ご意見（②産業振興）

- 旭川家具というブランドの中のひとつの派生したものとするよりも、1市2町の地域全体の産業としての位置づけを強く求める。「旭川家具」が果たしてきた功績を無視できない

ご意見（③コレクションの取得）

- 実際に使用することを考えると、現行品で補充のきく家具やプロダクトデザインを町として教材として購入する仕組みが必要

ご意見（④総括）

- これだけの構想をここまでまとめられたことに敬意を表する

2-2. 有識者意見聴取結果 | 藤田委員 (1/2)

- 産業団体・コレクション協力会会長の立場から、コレクションの活用方針・体験型活用・産業連携についてご意見をいただきました。

主なご意見

ご意見（①コレクションの全体像と活用方針）

- 本構想において織田コレクションが、単なる展示・収蔵資産ではなく、東川町の家具文化や豊かな暮らしを象徴する大切な文化資源として位置づけられている点は大変意義深い
- 今後は展示に留まらず、町全体との回遊性や、教育・地域産業・暮らしとのつながりを通じて、「見る文化財」から「体験し学ぶ文化資源」へと発展させていく視点が重要
- 上川圏域全体の家具産業とも連携しながら、より東川らしい活用を深めていくことを期待

ご意見（②展示と体験の両立・産業連携）

- 本構想が展示機能だけではなく、学び・交流・体験・産業発信を含めた複合的な機能を通じて、町全体で文化を感じられる方向性を目指している点は大変意義深い
- 今後は各施設の役割分担や回遊性をさらに整理し、展示を見るだけでなく、家具・写真・暮らし・地域産業に実際に触れ、体験できる仕組みを丁寧に具体化していくことが重要
- 製造現場・職人・人材育成・素材・流通、そして暮らしへの実装まで含め、地域産業全体とどのようにつながり価値創造へ発展させていくかを、地域企業と継続的に連携しながら具体化していくことが重要
- 特に、町民の日常利用と来訪者体験が自然に共存できる空間づくりを期待
- 「デザイン」という言葉だけが先行するのではなく、町民の日常や既存の文化資源、地域産業とのつながりを大切にしながら、無理のない運営体制や持続性も含めて丁寧に具体化していく必要がある
- 既存施設（せんとぴゅあ・文化ギャラリー・道の駅・郷土館等）の役割や課題を踏まえながら、旧東川駅跡をそれらをつなぐ新たな拠点として位置づけた上で、各施設との役割分担・回遊性・情報発信・運営連携などをさらに丁寧に整理し、町全体が相互につながり価値を高め合う仕組みとして具体化していくことが重要

2-2. 有識者意見聴取結果 | 藤田委員 (2/2)

- 持続可能な運営、「生活文化圏」としての発展についてご意見をいただきました。

主なご意見

ご意見（③文化創造・地域交流エリアの連携）

- 文化創造エリアと地域交流エリアをそれぞれ設けながら相互に連携を図る考え方は、文化発信と町民の日常利用を両立する上で、東川らしい方向性であると感じている
- 両エリアが空間的・機能的に分断されると、「町全体で文化を育む」という理念が弱まる懸念もある。回遊性や滞在性、日常利用の動線を通じて自然につながる空間・運営設計が重要

ご意見（④持続可能な運営・優先順位の整理・総括）

- 本事業が文化・産業・観光・交流・教育など、多様な可能性を持つ大変意義深い構想であると感じている。一方で、期待される役割が幅広い分、事業の中心となる価値や優先順位を丁寧に整理していくことも重要
- 施設整備だけが先行するのではなく、運営人材の育成や既存施設との連携、継続的な事業運営を含めて一体的に進めることが必要
- 本基本構想が、東川町が培ってきた写真文化や家具文化、自然、暮らし、学びを、町全体で感じられる「生活文化圏」として発展させようとしている点は、大変意義深い方向性
- 「デザイン」を特別なものとして捉えるのではなく、日常の暮らしの中に自然に息づく文化として丁寧に育んでいくことが大切
- 町民の日常利用や理解を大切にしながら、町全体に自然と広がる事業として育てていく視点が重要

2-3. 有識者意見聴取結果 | 杉本委員

- ・ 公共的文化資源としての位置づけと広域産地連携についてご意見をいただきました。

主なご意見

ご意見（①公共的文化資源としての位置づけと国内外への開放）

- 「町全体をデザインミュージアム」とする考え方は東川町らしい構想として大変意義があると感じる。旧東川駅跡を起点に、町内に点在する文化資源・公共施設・自然環境・暮らし・産業を有機的につなごうとする方向性は重要
- 織田コレクションは町有化というより、公有化された公共的な文化資源として捉えるべき。国内外のデザイン関係者や家具・建築・暮らしに関心を持つ多くの方々に開かれるべき資産
- 保存環境・管理体制・専門的な調査研究機能に加え、来訪者に対してその価値を丁寧に伝える展示・案内の質を高めることが重要
- 展示と体験を両立させる方向性は適切。ただし貴重な収蔵品と体験用の什器・展示物は明確に区分し、保存と活用のバランスを慎重に設計することが必要。質の高い体験そのものが、織田コレクションの価値を伝える重要な要素
- 本事業が東川町だけでなく旭川家具産地全体にとっても大きな可能性を持つ。町外から訪れる方々を質の高い空間と体験で迎える視点が重要

ご意見（②行政区域を超えた広域産地連携・総括）

- 本事業が家具・木工産業と接続することは東川町だけでなく旭川家具産地全体にとっても大きな可能性がある
- 今後の計画段階では行政区域にとらわれず、周辺地域の作り手、教育機関、展示施設、産業団体とも連携し、地域全体のデザイン資源として活用していく視点が必要
- 既存施設との役割分担を議論するとともに、旭川市・東神楽町など周辺地域との広域的な連携も重要。旭川家具産地全体の文脈の中で捉えることで、より厚みのある体験につながる
- 基本計画段階では、運営体制・事業費・広域連携・来訪者対応の質を丁寧に検討する必要がある
- 本構想は織田コレクションを核に東川町の文化・暮らし・産業・自然をつなぎ直す意欲的なプロジェクト。町内連携に加え、行政区域を超えた産地連携・文化連携・観光連携の視点を盛り込み、東川町らしい文化的なおもてなしを実現する拠点となることを期待する
- 文化創造エリアと地域交流エリアを設定し相互に連携させる考え方は適切。「町全体がデザインミュージアム」の入口となる施設には空間品質・展示品質・案内機能も求められる。文化と日常、町民利用と来訪者対応が自然につながる空間構成を期待

2-4. 有識者意見聴取結果 | 下田委員

- ・ エリア連携・外部空間の活用・展示と体験の融合について、町民への継続的な情報発信の重要性についてご意見をいただきました。

主なご意見

ご意見（①展示と体験の融合・エリアの連携）

- 今の案では、展示と体験の場所が完全に分けられてしまっており、一見両立しているように見えて、実際の活動を考えると、もっと融合した構成配置であるべきではないか
- 展示の部分と活動の領域がもっと相互に入り込み合うような配置を検討すべき。それをつなぐものとしての外部空間のあり方にもっと工夫が凝らされてしかるべきではないか

ご意見（②デザインミュージアム構想の具体化・動線整備）

- 「町全体をデザインミュージアムとする」という考えは基本的に表現されているが、既存施設もデザインを今まで以上に意識し、向上させる取り組みが必要。他の施設は今のままで言葉だけでは説得力がない
- 中心となる駅跡から、デザインという共通項で他の拠点がつながっていく全体像をもっと具体的に描くべき
- 道路の整備、駐車場のあり方などがとても重要。せんとびゅあから駅跡への道筋も歩きたくなる道にする必要がある
- 織田コレクションとその他の文化財では点数・重さ・世界的評価も大きく違う。ミュージアムカフェやショップもミュージアムの大切な一部であり、展示と一体的に設計すべき

総括

- 木工産業との接続はハード面よりもソフト面の問題が大きい。施設ができる前から木工業者がコレクションから学ぶ機会をもっと増やしていくことが先決
- 織田コレクションのためだけではない駅跡プロジェクトではあるが、織田コレクションという「世界的な財産」を東川町がお預かりしていることも忘れてはいけない。コレクションの価値に匹敵する施設を作る必要がある
- 将来の人口減少という現実を前に、東川町がこれからも現在の豊かさを維持し、町の人たちが幸せを実感して暮らしていけるかどうかがかかっているプロジェクトだと認識している
- 10年後に振り返ったときに、みんなが良かったと思えるようになるために、今試行錯誤していることは十分理解している
- 多くの町民がまだ自分事として捉えておらず、十分に情報も得ていないのが実情。自分事にしてもらおうための努力が役場のみならず多くの接点において必要

2-5. 有識者意見聴取結果 | 中村委員

- ・ 構造可視化の評価・閾値設定・本質言語化・透明性・東川スタイルの進化についてご意見をいただきました。

主なご意見

ご意見（①回遊コースの評価・構造可視化・本質言語化）

- 4つの回遊コースが具体的な拠点と紐づけて提示されており、面・線・点の構造が読み手に伝わりやすい。この「構造を可視化する」手法は人材育成・関係人口創出・コミュニティ形成にも応用されるべき
- 「人材育成」という言葉を用いるのであれば、誰を対象とし、どのような状態を目指すのかという育成像の明示が不可欠。CRAFTOPIAだけでなく地域づくりの担い手・文化活動の推進者も含むのかが読み取りにくい
- 旧駅跡の機能は①回遊のハブとしての機能と②旧駅跡自体が担う機能の二層に分けて検証すべき。生活デザイン産業のプロフェッショナル向けの活用は本事業の独自性と外部への求心力に直結する
- 地域コミュニティの充実を実現するとは何を行うことなのかという本質を特定し、明言することが必要

ご意見（②産業持続性・透明性・東川スタイルの進化）

- 関係人口創出の最も大きな目的は地場産業の持続性の向上に置かれるべき。名作家具と現代工房の系譜の展示・商談会・勉強会の開催など活用シナリオを具体化することで産業持続性向上への接続感が期待できる
- 事業者の選定をはじめとする進め方においては、透明性を特に重視すべき。収益を生み出すことへの意識の醸成が成功要因の一つ
- 行政職員の側にも、儲けを出すという点について民間事業者と同じ目線で追求するメンタリティを育て定着させていくことが、本事業の成功要因の一つ
- このプロジェクトは東川スタイルを次のバージョンに上げるということに取り組まれている。これまでのプロセスの振り返りと学びを形式知化していただきたい
- 教育機関連携では高校・専門学校・日本語学校も方針レベルで言及が望ましい。北欧に新たな友好都市を設けるなど広い視野での連携先構想も

2-6. 有識者意見聴取結果 | 水野委員

- ・ 人材育成・価値循環・関係人口・施設の役割・長期財政の視点からご意見をいただきました。

主なご意見

ご意見（①人材育成・価値循環の表現）

- 木工家具産業の維持・発展において人材育成は極めて重要な要素。織田コレクションを活用したデザイン学習機会の創出は適切
- 具体的に誰がどのように当該施設で木工家具産業を学び、触れ、体験するのかについて想定し明確にすべきである
- 「価値の循環」の実現に当たっては当該施設への役割過多が懸念される。他施設との役割分担を明確にした上で関係性を含めて表現することが必要
- 当該施設において優先すべき事項は「町民一人ひとりの居場所となる施設」であることを基本としつつ、「木工家具産業を守り育み発展させる拠点」としての役割を明確に位置付けること
- 織田コレクションを通じて国内外の研究者・愛好家が来訪し関係人口創出につながる可能性が高まる。地域の魅力を町民が紹介する仕組みを新たに設けることで効果が一層深まる

ご意見（②幅広い町民への周知・長期財政・総括）

- 本プロジェクトのみをもって町の課題すべてを解決することは困難。各自治区が抱える課題を丁寧に把握した上で、別の施策で検討することも考慮し対応する取り組みが不可欠
- 30年・50年という長期的な視点で持続していく重要な施設。本町が保有する他の施設も含め、少なくとも20年程度見通した財政計画を取りまとめた上で総合的に検討する必要がある
- 「文化によるまちづくり」を進めてきたこれまでの東川町を象徴する取り組みであり、閉塞感の漂う現代において地域に大きな意義と影響をもたらす可能性を有するものと考え
- 役場の取り組みのほか、懇談会委員の皆様から町民の皆様へ、本プロジェクトの意義や魅力をさらに広く共有していくことが、町民一人一人に「自分事」として捉えていただくための重要な一歩
- 誰が、どのような学びを得て、どのような活動の場として活用することが想定されるのかについて、考え得る具体例を可能な限り整理し、明示していくことが必要。本基本構想においてやや見えにくい印象がある

2-7. 有識者意見聴取結果 | 小篠委員 (1/2)

- ・ 人材育成・「文化農村」概念・地域コミュニティ・空間機能の配置についてご意見をいただきました。

主なご意見

ご意見（①人材育成・「文化農村」概念）

- 誰に何を学んでもらってそれが人材育成につながるのかを具体的に書けていない。10年・20年後の担い手を育てるなら小中学校・高校・専門学校との連携は欠かせない
- 「文化」を単なる町民のシビック・プライドを高めるために用いる程度では、人材育成にはつながらない。「文化人材」と言える文化的知識と能力を持った人間が将来のまちづくり人材となるという強い信念を持って育成に力を込める必要がある
- 文化・アートの分野はケアや福祉の世界でも力を持っており、東川が絶対に強化していかなければならない分野である
- 「文化農村」（基本構想（案）のp2「プロジェクトの趣旨」）に書かれている。「東川村史」（昭和29年）序文より引用した表記）にはもっと深い意味がある。農業と家具産業という2つの基幹産業に加えて文化・芸術・交流活動という分野を統合し、持続可能で魅力的なコミュニティを創出する新しい地域モデルと位置づけることが可能
- 「文化農村」をより深く掘り下げることで、地域内に新たな人や活動・価値の循環を創出する理由と仕組みを基本構想の中に明確に記述できるようになる

ご意見（②地域コミュニティ・空間機能の配置）

- 外来文化と長年暮らす町民の文化をうまくつなげることができず生じたギャップへの配慮が必要。農業用倉庫をリノベーションするプロジェクトでもあるので「農」というキーワードが様々な要素をつなぐ接着剤になる
- 概略図に「学び・活動の場」がどこにあるのかを示せていない。家具の歴史を学ぶ文献研究・デザイン研究・景観条例を題材にしたまちづくりのためのデザイン実践者育成など具体的な記述が必要
- 今までの活動で獲得した果実（コレクション貸出・展覧会の成果等）を生かすことを忘れずに取り組むという姿勢を明らかにすべき
- 文化創造エリアと地域交流エリアに別れて機能が配置されているように見え、融合・複合化したプロジェクトに感じられない
- 関係人口の創出にはハードだけでなくソフト事業との連携が不可欠。拠点整備・街路整備・屋外空間や公園の3つをセットにした整備で生まれるウォーカブルで回遊性のある都市空間の実現が必要

2-7. 有識者意見聴取結果 | 小篠委員 (2/2)

- 施設規模・倉庫群の保存活用・公民連携の目的・機能の絞り込みについてご意見をいただきました。

主なご意見

ご意見（③施設規模・倉庫群・公民連携）

- 収蔵庫の面積だけでせんとぴゅあⅡに匹敵する規模は過大。その中に教育やコミュニティに関連する機能を盛り込んだようにリサイズし、このプロジェクトの第1期として少し絞った面積で実現を考えるべき
- 10棟のうち4棟しか活用しないのであれば「重要な建物群」という評価と矛盾する。耐震改修費の積算がアバウトすぎる。もう一度、既存施設の調査と保存活用方法の検討・根拠ある概算見積りのための調査・検討が必要
- 文化・学び・社会的経済的価値創造・コミュニティ形成という4つの機能が併存する公共施設がイメージしにくい。「このプロジェクトで一番求めているものはこれだ」とわかるような方針の明示が必要
- 文化創造エリアは直営で、まちづくり会社のモチベーションをどのように捉えて、具体的に何の課題を乗り越えるために民間の力を導入するのかを明記する必要がある
- 紫波や上士幌など、財政問題や人口問題を解消するための公民連携であった。では東川では何の課題を解くために公民連携をするのか。自分たちの置かれている状況を見つめ直すことが必要

総括

- ここまで意見を述べさせていただく機会を作っていただくのは感謝している
- 最後のプロセスで有識者会議には意見聴取して終わりという状況への懸念がある。懇談会に今回の意見を提示するとき、あるいは最終の懇談会の前あるいは同時に有識者も同席する会議の機会を持ていただきたい
- 基本構想策定プロセスの最後に、基本構想とは何であるべきかを問うことで、もう一段高いレベルの構想に手が届くのではないか
- 「対話と参加」をあまりにも全面に押し出すことが「全部のせ」の状況を生んでいる。もっとシェイプアップして「このプロジェクトで一番求めているものはこれだ」という方針を明示することが重要